

| | | | |
|--|-------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)A | | |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 歌う活動が中心になります。 歌唱に必要な正確な音程感、正しいリズム感、こどもの歌に相応しい発声、音楽表現が身に付くよう進めていきます。 プリント資料を追加し、様々な音楽表現を身に付けるための曲を適宜取り扱います。</p> <p>[到達目標] 無理のない自然な発声法で正しく表情豊かに音楽表現することができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で学んだことを復習、反復練習を行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技テスト(80%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技試験の後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自信を持って歌える曲のレパートリーを増やせるように心がけてください。</p> | | | |

| | |
|---|-------------|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)A |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業についてのガイダンス、こどもの歌(園生活のうた)、指あそび(園生活のうた) 2.こどもの歌(季節・春・あいさつのうた)、指あそび(食べ物のうた) 3.こどもの歌(季節・春・自然のうた)、指あそび(春の自然のうた) 4.こどもの歌(季節・春・生きもののうた)、指あそび(おはなしの中のうた) 5.こどもの歌(季節・春・行事のうた)、指あそび(春の行事のうた) 6.こどもの歌(動物のうた)、指あそび(動物のうた) 7.こどもの歌(いろいろなうた)、指あそび(わらべうた) 8.こどもの歌(家族のうた)、指あそび(指の名前のうた) 9.こどもの歌(乗り物のうた)、指あそび(乗り物のうた) 10.こどもの歌(季節・夏・生きもののうた)、指あそび(ジャンケンあそびのうた) 11.こどもの歌(季節・夏・自然のうた)、指あそび(生活のうた) 12.こどもの歌(季節・夏・行事のうた)、指あそび(夏の行事のうた) 13.自己表現が身に付いたかの確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『指あそび手あそび100』 著者名:阿部直美編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8109-7)</p> <p>『こどものうた200』 著者名:小林美実編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8100-4 C2037)</p> <p>『全訳コールユーブンゲン』 著者名:信時潔訳 出版社:大阪開成館発行</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館</p> | |

| | | | |
|--|-------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)B | | |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 歌う活動が中心となります。 『指あそび手あそび100』の曲集から、音楽表現が音楽(歌唱)Aより発展的なものを扱います。 『こどものうた200』の曲集とプリント資料による追加によって、曲に相応しい発声法を深めるための曲を適宜取り扱います。その際、手話、輪唱、合唱なども扱います。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 歌唱Aを発展させた歌唱表現を身に付けることができるようになる。 コールユーブンゲンのリズムや音程の基礎訓練を七度音程まで身に付けることができるようになる。 ソルフェージュの♯・♭各3までの調を理解できるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教育実習、保育実習現場で対応できる曲数を確保できることを心がけてください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技テスト(80%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技試験の後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自信を持って歌える曲のレパートリーを増やし、歌詞の内容表現を生かせるように心がけてください。</p> | | | |

| | |
|---|-------------|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)B |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.こどもの歌(季節・秋・自然のうた)、指あそび(秋の自然のうた) 2.こどもの歌(季節・秋・生きもののうた)、指あそび(秋の生きもののうた) 3.こどもの歌(季節・秋・動物のうた)、指あそび(動物のうた) 4.こどもの歌(季節・秋・行事のうた)、指あそび(ジャンケン遊びのうた) 5.こどもの歌(いろいろなうた)、指あそび(食べもののうた) 6.こどもの歌(世界のうた)、指あそび(乗りもののうた) 7.こどもの歌(輪唱)、指あそび(指の名前のうた) 8.こどもの歌(簡単な重唱)、指あそび(低年齢児の指あそび) 9.こどもの歌(季節・冬)、指あそび(冬の自然のうた) 10.こどもの歌(季節・冬)、指あそび(冬の生きもののうた) 11.こどもの歌(季節・冬)、指あそび(わらべうた、ゲームで手あそび) 12.こどもの歌(季節・冬)、指あそび(冬の生活のうた) 13.こどもの歌をどのように表現できるかの実践及び確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『指あそび手あそび100』 著者名:阿部直美編 出版社:チャイルド本社 (4-8054-8109-9 C2037)</p> <p>『こどものうた200』 著者名:小林美実編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8100-4 C2037)</p> <p>『全訳コールユーブンゲン』 著者名:信時潔訳 出版社:大阪開成館発行</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館</p> | |

| | | | |
|--|-------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)C | | |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 歌う活動の技能習得を目指します。 曲の内容を十分に把握し、音楽性豊かに表現する力が習得できるよう進めていきます。 歌詞の言葉を大切にして、そのリズムの持つ面白さ、楽しさ、響きの美しさなどを、子どもと共に共感できる歌い方を心がけ、音楽(歌唱)A・Bの学習をふまえてさらにスキルアップを目指します。</p> <p>[到達目標] ① 歌を学ぶことによって、楽曲の本質を見抜いた表現ができるようになる。 ② 歌唱の自己表現を確かなものとし、レパートリーを増やし、いつでも演奏できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 平素から、教育実習、保育実習で役立てられるように、準備をしてください。 自己アピールできる曲のレパートリーを持ち、採用試験にも向けた備えを心がけてください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技テスト(80%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技試験の後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自信を持って歌える曲を増やします。 歌詞の特徴を捉えて表現できるようにします。</p> | | | |

| | |
|--|-------------|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(歌唱)C |
| 担当者 | 貞清 直美、安川 裕子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのオリエンテーション、発声について 2. 四季のうた(春・生きもののうた)、手遊び(動物のうた) 3. 四季のうた(春・自然のうた)、手あそび(春・自然のうた) 4. 四季のうた(春・行事のうた)、手あそび(ジャンケン遊びのうた) 5. 四季のうた(夏・食べもののうた)、手あそび(夏・自然のうた) 6. 四季のうた(夏・自然のうた)、手あそび(わらべうた) 7. 四季のうた(夏・行事のうた)、手あそび(乳児のための手あそびうた) 8. 四季のうた(秋・生きもののうた)、手あそび(秋・自然のうた) 9. 四季のうた(秋・自然のうた)、手あそび(秋・生きもののうた) 10. 四季のうた(秋・行事のうた)、手あそび(秋・行事のうた) 11. 四季のうた(冬・生活のうた)、手遊び(冬・生きもののうた) 12. 四季のうた(冬・行事のうた)、手遊び(冬・自然のうた) 13. 現場でいつでも歌える曲の確認 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 実技テストと授業態度で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『指あそび手あそび100』 著者名:阿部 直美編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8109-7)</p> <p>『続こどものうた200』 著者名:小林 美実編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0002-9 C2037)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)A1 | | |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 毎回のピアノ授業では、個人の能力に応じたきめこまかいピアノ指導を行います。また、実際の保育現場で使える実践実習を中心に進めます。</p> <p>[到達目標] ①ピアノ演奏の基礎力を身に付ける。 ②弾き歌いができるようになる。 ③保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業における個人レッスンの時間が十分に活用できるように、十分に日々の練習を行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中の態度、進捗、技術力などによる平常点(40%)と実技発表・テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レッスンの中で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 毎回のピアノレッスンには3教材の十分な準備練習をして臨むようにして下さい。</p> | | | |

| | |
|--|--|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)A1 |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 |
| <p>[授業計画]</p> <p>毎回個人指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業方針の説明 グループ分け 課題選曲 2. 「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 3. 「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 4. 「園生活」「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 5. 「園生活」「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 6. これまで学んだ楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグルーブレッスンも行う 7. 第2回～第6回で修得した作品実技テスト 8. 「行事」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 9. 「行事」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 10. 「いろいろなうた」「園生活」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 11. 「いろいろなうた」「園生活」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 12. これまで学んだ楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグルーブレッスンも行う 13. 第2回～第12回で修得した作品の実技テスト <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業中の態度、進捗、技術力などによる平常点(40%)、実技発表・テスト(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-8100-5) その他、適宜ピアノ教本(個別に指示)</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)A2 | | |
| 担当者 | 宮永 輝子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 指導者として身に付けておきたい音楽理論の基礎やリズムの知識を学びます。 又身体運動を伴ったリズムトレーニングを通して、リズム感や拍子感等音楽的感覚・表現を養います。</p> <p>[到達目標] ①実際の教育現場で実用できる音楽・リズム教育について考え実習によってそれを身に付けることができる。 ②音楽の基礎的な表現の能力を育て音楽表現の楽しさを伝えられるようになる。 ③保育現場でリズム楽器を用いて音楽を表現できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストは使用しませんので、授業内容をまとめ自分なりのテキストとなるノートを作っておいてください。 又、実習に関しては、繰り返し練習する等、実践に即した学習を積極的に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 理解度確認テスト(60%)、実技確認テスト(10%)、小テスト(5%)、提出物(20%)、授業態度(5%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は、後日添削して返却します。 理解度確認テストは、返却し解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 子ども達に教えるということは、まず自己を知ることが大切です。自分自身のリズム感をしっかりと身に付けるためにも、授業には積極的に心から楽しんで参加するという気持ちを忘れないでください。 5線紙ノートを用意しておいてください。 この授業は後期の音楽(器楽)Bに続いていく授業です。</p> | | | |

| | |
|--|----------|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)A2 |
| 担当者 | 宮永 輝子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎リズムについて(単純音符と単純休符) 2. 数と拍の把握(付点・複付点)・連符の種類 3. リズムカード作り 4. 即時反応・拍子について(強起・弱起) 5. シンクペーション・幼児に合った教育楽器の奏法 6. 小グループでのアンサンブル 7. 補足リズム・総譜(スコア)作り 8. 手作り楽器の製作 9. 手作り楽器の紹介・合奏 10. 4分の3拍子と8分の6拍子・鍵盤と音階 11. 和音の基本形および転回形・カデンツ(I -V7- I) 12. リズムの知識に関する理解度の確認 13. リズムの実技確認とアンサンブル実習 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、実技テスト、受講態度</p> <p>【2-1】 【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 実技テスト、受講態度。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-8100-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)] プリント配布</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)B | | |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 毎回のピアノ授業では、個人の能力に応じたきめこまかいピアノ指導を行います。また、実際の保育現場で使える実践実習を中心に進めます。 リズム教育を中心に音楽理論の基礎の理解を深め、楽器を用いて、実際の保育現場で使える実践実習を中心に進めます。</p> <p>[到達目標] ①ピアノ演奏の基礎力や応用力を身に付ける。 ② 弾き歌いができるようになる。 ③保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ④保育現場でピアノやリズム楽器を用いて音楽を表現できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ピアノ実技においては、授業における個人レッスンの時間が活用できるように、日々の練習を十分に行ってください。 リズムにおいては、授業で学んだことを実技に活かせるよう、理解、習得、応用の反復学習を行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] ピアノ実技における授業態度、進捗、技術力などによる平常点(15%)と2回行うピアノ実技テスト点(35%)と、リズム授業での小テスト(30%)、実技テスト(10%)および授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後講評を行います。 リズム小テスト返却時に解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 毎回のピアノレッスンには3教材の十分な準備練習をして臨むようにして下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)B |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 |
| <p>[授業計画] 毎回個人指導 1. 授業方針の説明 「季節」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 2. 「季節」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす、 3. 「季節」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 4. 「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 5. 「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 6. 1～5に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグルーブレッスンも行う 7. 第1回～第6回で修得した課題の発表 8. 「いろいろなうた」「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 9. 「いろいろなうた」「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 10. 現場でよく歌われるこどもの歌の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 11. 現場でよく歌われるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 12. 8～11回で習得した楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグルーブレッスンも行う 13. 第12回までで修得した課題の発表</p> <p>【リズム】宮永 1. 譜表と音名 2. 長音階と短音階 3. 音程1(度数と音程の種類) 4. 反復記号・省略記号 5. 指揮法・リズムトレーニング 6. 音程2(派生音を含む音程) 7. 調性と和音の確認 8. コードネームの理解 9. 記号と標語・調判定 10. 近親調 11. 編曲法 12. 楽譜を読むための理論の確認 13. アンサンブル実習</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:ピアノ実技における授業態度、進捗、技術力などによる平常点(15%)、2回行うピアノ実技テスト(35%)、リズム授業での小テスト(30%)、実技テスト(10%)および授業態度(10%)</p> <p>[テキスト (ISBN)] 『こどものうた 200』 著者名:小林美実編 出版社:チャイルド本社 (4-8054-8100-5) その他、適宜ピアノ教本(個別に指示)</p> <p>[参考文献 (ISBN)] 『幼稚園教育要領』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)C | | |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 音楽(器楽)A1・A2・Bの学修を踏まえた上で音楽(器楽)Cの授業を行います。毎回のレッスンでは、個人の能力に応じたきめ細かい指導を行います。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育現場での音楽活動のためにピアノの応用演奏ができるようになる。 ② 自分の思いを音で表現できるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業における個人レッスンの時間が十分に活用できるように、日々の練習を十分に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業中の態度、進捗、技術力などによる平常点(40%)と実技発表・テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レッスンの中で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 毎回のレッスンには教材の十分な準備練習をするようにして下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--|
| 授業科目名 (副題) | 音楽(器楽)C |
| 担当者 | 小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、金光 奈穂 |
| <p>[授業計画]</p> <p>毎回個人指導</p> <p>1. 授業方針の説明 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習</p> <p>2. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす</p> <p>3. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす</p> <p>4. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習</p> <p>5. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす</p> <p>6. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす</p> <p>7. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習</p> <p>8. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす</p> <p>9. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす</p> <p>10. 現場でよく歌われるこどもの歌の弾き歌いとバイエル他各自の震度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習</p> <p>11. 現場でよく歌われるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす</p> <p>12. 1～11回で習得した楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグルーブレッスンも行う</p> <p>13. 第8回～第12回で修得した課題の発表</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業中の態度、進捗、技術力などによる平常点(40%)と実技発表・テスト(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『続 こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-0002-1)</p> <p>『こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-8100-5)</p> <p>その他、適宜ピアノ教本(個別に指示)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81477-5)</p> | |

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I | | |
| 担当者 | 川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での実務経験を活かして、保育実践の指導を行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育に関する遊びや表現について、具体的な活動や受講生同士の討議を通し、幼児を理解するとはどういうことなのか、幼児の遊びにはどのような意味があるのかなどについて考察し、保育者として必要な知識や技術を学び実践力を身に付けます。</p> <p>[到達目標] ①保育にとっての遊びや表現活動とは何かを理解することができる。 ②保育者として遊びや表現活動における実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業に参加する前に必ず事前に配布した資料を読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(50%)、レポート・課題等の提出物(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや課題、ポートフォリオ等は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業には課題意識をもって積極的に参加してください。また、保育現場で実践することを念頭において毎回の授業内容をスケッチブックにまとめるよう心がけてください。</p> | | | |

| | |
|--|----------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I |
| 担当者 | 川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の遊びや表現について 2. 幼児理解①個々の遊びから 3. 幼児理解②集団遊びから 4. 幼児理解③地域において 5. 幼児理解と保育者の役割①個の援助 6. 幼児理解と保育者の役割②集団の援助 7. 幼児理解と保育者の役割③個と集団の援助 8. 幼児の主体性を育てる援助方法①物的環境 9. 幼児の主体性を育てる援助方法②人的環境 10. 幼児の主体性を育てる援助方法③季節・行事 11. 個と集団の援助方法 12. 保育と省察 13. 子どもを取り巻く社会の変化と今後の課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポートや課題、ポートフォリオ</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: レポートや課題、ポートフォリオ</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『保育所保育指針』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81422-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81424-6)</p> | |

| | | | |
|--|----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I | | |
| 担当者 | 小松原 祥子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育者としての実践力育成のため、リトミックを中心とした音楽遊び、イメージを表現するピアノ連弾等のアンサンブルと発表を行います。背景となる子どもと音楽について理解を深めていきます。</p> <p>[到達目標] ①リトミック等保育における音楽遊びを実践し、提案できる。 ②音楽を通して保育実践力を身に付けることができる。 ③イメージを表現することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎週の課題に基づいた準備練習を行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 毎週の演習状況(30%)と発表(40%)レポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 演習とレッスン、発表での表現について、毎回その場でコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 毎回の授業には課題を十分練習する必要があります。学生の自覚ある積極的受講姿勢を希望します。また、毎週の演習、レッスンのほか学内外の行事に参加することがあります。</p> | | | |

| | |
|---|----------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I |
| 担当者 | 小松原 祥子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション アンサンブル計画 2. アンサンブルレッスン リトミック(即時反応) 3. アンサンブルレッスン リトミック(ニュアンス・基礎リズム) 4. アンサンブルレッスン リトミック(リズムパターン、フレーズ) 5. アンサンブルレッスン リトミック(拍子、形式) 6. アンサンブルレッスン リトミック(音の高低・遅速、ソルフェージュ) 7. 音楽遊び発表 アンサンブルレッスン 8. アンサンブルレッスン (曲目選定、招待状作成) 9. アンサンブルレッスン (ポスターとプログラム作製) 10. アンサンブルレッスン (絵と語り作成①) 11. アンサンブルレッスン (絵と語り作成②) 12. アンサンブルレッスン リハーサル 13. アンサンブル発表 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 毎週の演習状況(30%)、発表(40%)、レポート(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I | | |
| 担当者 | 永井 久美子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、今日的な課題(保育事故等)への対応について、事例をあげて説明します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 子どもに関するテキストを用い、共に考えます。また、子どもの本来の健やかな育ちを支援する施設・機関・団体などの新しい動向や連携方法を学び、かつ「いま自分にできること」を行動に移す契機とします。</p> <p>[到達目標] 積極性と意欲を持って多くを吸収し、乳児に向き合う大人としての自覚を持ち、保育実践力を高めることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(40%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に授業に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|----------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I |
| 担当者 | 永井 久美子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グループ討議①(第1章 事件の顛末)レポート作成 3. グループ討議①発表 4. グループ討議②(第2章 事件に至る経緯)レポート作成 5. グループ討議②発表 6. グループ討議③(第3章 事件への対応)レポート作成 7. グループ討議③発表 8. グループ討議④(第4章 上尾保育所で起きていたこと)レポート作成 9. グループ討議④発表 10. グループ討議⑤(第5章 上尾保育所だけの問題ではない)レポート作成 11. グループ討議⑤発表 12. 保育所における子育て支援の実際(フィールドワーク) 13. 保育所における子育て支援の課題・様々な子育て支援現場における課題 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(40%)、レポート(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『死を招いた保育』 著者名: 猪熊弘子 出版社: ひとなる書房 (978-4-89464-168-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>未定 著者名: 未定 出版社: 未定 (未定)</p> | |

| | | | |
|---|----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 毎回、貧困、差別等の社会的なテーマをもった映画を視聴し、テーマについて考え、その考えを表現し、新たな疑問に対する答えを探し、深い考察をもつことを練習します。映画は材料であり、履修する学生が主体的にその材料をもとに「考える」ことを学びます。次世代を育てる子どもの「見本」となる身近な大人のひとりである保育士の「保育実践力」のさらに元となる「人間力」を高めます。</p> <p>[到達目標] 自分が感じたことを的確に言葉で表現することに自信を持つことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で見た映画で取り上げたテーマに対して、授業時間外でインターネット等を利用してリサーチをし、調べた内容を視聴後のレポート(映画ノート)にまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業参加(30%)、提出物(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出された映画ノートについてはコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] やる気と創造性、知的好奇心を持って授業に臨んでください。 映画を見る回は2コマ続きになりますので注意してください。</p> | | | |

| | |
|---|----------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション このゼミで学ぶこと 2. 映画1.「社会的問題 経済的格差」解説と映画鑑賞 3. 映画1.「社会的問題 経済的格差」テーマに各自調べる⇒グループ討議 4. Show and Tell 自分の大切なものを人に紹介する プレゼンの方法 5. 映画2.「多様性と共生」解説と映画鑑賞 6. 映画2.「多様性と共生」テーマに各自調べる⇒グループ討議 7. 映画3.「回復」解説と映画鑑賞 8. 映画3.「回復」テーマに各自調べる⇒グループ討議 9. 映画4.「様々な家族」解説と映画鑑賞 10. 映画4.「様々な家族」テーマに各自調べる⇒グループ討議 11. 映画5.「差別」解説と映画鑑賞 12. 映画5.「差別」テーマに各自調べる⇒グループ討議 13. まとめとふりかえり <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 提出物、授業内での発言</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、絵本を使った活動について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 絵本を通して、子どもの成長過程や子供を取り巻く環境の大切さについての理解を深めます。様々な絵本を取り上げ、その絵や言葉の持つ価値について考えます。さらに、読み聞かせを重ねて、様々なジャンルの本の取り上げ方も考えていきます。</p> <p>[到達目標] ①子どもの発達を理解し、絵本を使って保育者としての実践につながる力を身に付けることができる。 ②見通しをもって課題に取り組み、自主的に課題を解決しようとすることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の課題に向けて、豊かな発想と行動力を使って、発表の準備をしてください。どのように取り組めばよいかは、あらかじめ伝えていきます。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出課題(30%)発表(40%)授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は、講評や解説を加えて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自分なりのめあてをもって、積極的に学んでください。</p> | | | |

| | |
|--|----------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習 I |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション</p> <p>2. 絵本を読もう① 読み聞かせについて考える</p> <p>3. 絵本を読もう② 絵本を考える</p> <p>4. 絵本を読もう③ グループ発表と討議</p> <p>5. 絵本を読もう④ 全体発表とふりかえり</p> <p>6. 絵本を楽しもう① 言葉遊びと絵本</p> <p>7. 絵本を楽しもう② 文字と絵本</p> <p>8. 絵本を楽しもう③ 挿絵と絵本</p> <p>9. 絵本を楽しもう④ 子どもと絵本</p> <p>10.昔話の世界</p> <p>11. ビブリオバトル① ビブリオバトルとは</p> <p>12. ビブリオバトル② ビブリオバトルをしよう</p> <p>13. ふりかえりと課題</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 提出課題 発表</p> <p>【3-1】 【】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|-----------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 作品の制作、子どもの造形表現活動支援の実践 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 作品制作などの造形表現活動の実践を通して、子どもの楽しく豊かな造形表現活動の支援について探求します。表現方法や画材について研究を深め、作品の展示や鑑賞活動にも取り組み、保育実践力の向上を目指します。</p> <p>[到達目標] 作品制作などの造形表現活動を通して、表現方法や画材についての研究を深め、子どもの楽しく豊かな造形表現活動を支援するための実践力を向上させることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] さまざまな表現や画材に興味を持ち、制作において積極的に取り組んでください。授業時間内に作品が制作が終わらなかった場合は、次の授業までに仕上げてください。 各回の講義についての予習・復習を行う(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 制作作品、ワークシートなどの提出物(50%)、子どもの造形表現活動支援への取り組みや、受講態度(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 制作作品は展示にて、子どもの造形表現活動支援は実践後に振り返りを行い、学修成果の可視化に取り組みます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 作品制作活動や子どもたちの造形表現活動の支援について、学外授業などにも積極的な参加を歓迎します。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの造形表現活動とその支援について 2.子どもの造形表現活動の支援・研究 身体を介した造形活動の支援について 3.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践①画材について 4.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践②表現方法について 5.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践③支援活動について 6.子どもの造形表現活動の支援・実践のための準備 7.子どもの造形表現活動の支援・保育園での実践①準備 8.子どもの造形表現活動の支援・保育園での実践②支援活動 9.子どもの造形表現活動の支援・活動の振り返り 10.子どもの造形表現活動の支援・鑑賞活動の研究 11.子どもの造形表現活動の支援・鑑賞活動の実践 12.子どもの造形表現活動と保育実践力 13.作品の展示と発表 振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:制作作品、ワークシート、子どもの造形表現活動の支援活動への取り組みで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|---------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ | | |
| 担当者 | 矢野 真理 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの心身の健康問題について文献を通して現状を学ぶ。また運動実践を行い、運動が心身に及ぼす影響について理解を深める。</p> <p>[到達目標] ①子どもの心身の健康問題について理解を深めることができる。 ②各自が関心を持ったテーマに取り組み、自分の考えをまとめて発表することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から子どもの心身の健康問題について考え、関連書物や新聞記事、ニュース等に目を向けておいてください。また発表テーマに関連のある文献の収集を心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] テーマに取り組む姿勢・授業態度(30%)、レポート(30%)、発表(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削指導して返却します。発表は、終了後に講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 意欲的にテーマに取り組み、自分の考えをまとめて積極的に発言して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ |
| 担当者 | 矢野 真理 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子どもの体力の現状と問題 3. 体力について理解を深める 4. 体力とトレーニング 5. 子どもの睡眠の現状と問題 6. 子どもの肥満と痩せの問題 7. 子どもの栄養摂取の現状と問題 8. 子どものアレルギーの現状 9. 発表テーマの設定 10. パワーポイント作成の説明 11. 中間発表 意見交換する 12. 修正 出された意見を基に修正する 13. 発表 評価と考察 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: テーマに取り組む姿勢、レポート、発表 ・</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 幼児期運動指針ガイドブック 著者名: 文部科学省 出版社: 株式会社サンライフ企画 (978-4-904011-47-8)</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、素材の活用や幼児主体の保育の取り組みなど実践を通して指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] マリオネット作りを通して、様々な素材に触れたり活用したりしながら、子どもの興味や関心、感性の育成についての学修を深め、子どもの心に届く教材や保育者の役割について具体的に学んでいきます。</p> <p>[到達目標] 子どもの気持ちを理解し支える保育者、子どもと共に様々な活動を楽しむ保育者としての実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 多くの絵本に触れたり、ボランティア活動で幼稚園・保育所等へ積極的に出かけたりして保育実践力を高める努力をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 作品(30%)、実践(40%)、授業態度(10%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して、作品はコメントを添えて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 保育者への意欲をもち、自分の資質を高めていこうとする積極的な気持ちをもって臨んでください。</p> | | | |

| | |
|--|---------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ |
| 担当者 | 桐原 美恵子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心と体が動く保育について 2. 身近なものに目を留めて① <ul style="list-style-type: none"> ・お話づくりと表現 ・ターシャ・テューダーの世界から学ぶ 3. お話の場面を表現する① <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達と表現 ・いろいろな素材の研究 4. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり① <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と計画 5. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり② <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの動き方研究 6. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり③ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(部分) 7. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり④ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(全体) 8. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(互いに評価) 9. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・お話づくり 10. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味や関心について 11. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・お話のイメージを共有する 12. 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して 13. 実践発表、振り返りと課題(レポート作成) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 実践</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門知識を身に付けている。 成績評価方法: 作品、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などの社会心理的テーマを取りあげながら授業を行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの育ちや保護者の子育ての支援者にとって、自分自身の心の健康を保つことは基本的なことであり大切なことです。授業では、心をケアするために知っておきたい様々な考え方やストレスを感じたときの対処法、私たちを不安にさせる原因など、テーマに沿った課題をグループ学習することで支援者に必要なメンタルヘルスマネジメントの力を高めます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①支援者に必要なメンタルヘルスの基礎的知識を習得できるようになる。 ②安定した人間関係を築ける支援者になるためにまず自分自身について理解し、メンタルヘルスのマネジメントについて理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取りあげるテーマに沿ってテキストの指定場所を読んで予習してください。授業後は、復習として授業で行った自己課題やグループ学習を自分なりに見直し、振り返りレポートを提出してください。(各回予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>自己課題(20%)、振り返りレポートの提出物(30%)、グループワークにおける意欲・態度・責任感・課題からの学び・気づき(50%)によって評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業時のプレゼンテーションについては授業時にフィードバックを行います。振り返りレポートについては、個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>テーマごとにワークシートがあります。授業内容から自分でテーマに応じた問いや課題を見つけ主体的に取り組みましょう。</p> | | | |

| | |
|--|---------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心の健康の基礎をつくる基本のケアについて 3. 心の健康を支える5本の柱と自分の価値観を知る 4. 感情のキャパシティを知る 5. 苦しい状況から自分を守る方法 6. 自分の感情を認識し、受け入れ、理解する(1)認識(2)感情のサイクル 7. 自分の感情を認識し、受け入れ、理解する(3)意味づけ(4)不安のサイクル 8. 嫌な気分の原因を理解する 9. 正しく比較するスキル 10. アンガーマネジメント 11. 心の容量を増やそう(1)行動 12. 心の容量を増やそう(2)思考 13. メンタルを整える(まとめ) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 自己課題(20%)、振り返りレポートの提出(30%)、グループワークにおける意欲・態度・責任感・テーマからの学び・気づき(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>心の容量が増えるメンタルの取扱説明書 著者名:エマ・ヘップバーン 出版社:Discover (978-4-7993-2809-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ | | |
| 担当者 | 大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、乳幼児が心動かして遊ぶ環境の構成や遊びの工夫など実践を通して指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 地域・保育園の親子との交流 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | 地域・保育園の親子との交流 | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の子どもの発達や遊びや学びのプロセスを学び、自分の今後のキャリアに活かせる保育実践力を身に付けていきます。脚本作りから、音楽効果を含む演出等について受講生全員で役割分担しながら、協同作業と個々の表現力を必要とする「人形劇づくり」に取り組み、仲間とのつながり(同僚性)を高めます。また、学科行事、神女中山手保育園との「きずなDAY」において作成した人形劇を実演し、子どもが楽しむ手作り教材の教育的効果を探ります。</p> <p>[到達目標] ①演じ方の工夫や表現力を高めること、各自の役割遂行に責任を持つこと、協同する喜びを味わうことから保育者として必要な同僚性を高めることができる。 ②実践を通して幼児理解を深め、保育実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 手作り教材の作成、実演の練習等を繰り返し行い、知識・技術を修得してください。神女中山手保育園との合同行事「きずなDAY」に積極的に参加して、実際の子どものふれあいを通して幼児理解を深める努力をしてください。また、「自己課題」を持ち、活動の振り返りを通して自分なりに評価し、次の活動に活かすように取り組んでください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 作品(30%)、実践(40%)、課題レポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] グループ活動に参加し、相手の話をよく聞き、自分の考えを積極的に述べてください。子どもとの触れ合いを通じて幼児理解を深めてください。</p> | | | |

| | |
|--|---------|
| 授業科目名 (副題) | 学科特別演習Ⅱ |
| 担当者 | 大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.人形劇・パネルシアター等、児童文化財に関する資料収集 <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題決定、題材検討、予定表作成 3.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう① <ul style="list-style-type: none"> ・素材研究、役割分担、台本作成と担当人形の作成について 4.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう② <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しむ人形劇について 5.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう③ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに伝えるための工夫について 6.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう④ <ul style="list-style-type: none"> ・小道具や大道具の作成 7.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・台詞と歌の作成、効果音や動かし方について ・子どもが興味や関心を持つための演じ方の工夫(情報機器の活用を含む) 8.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・人形の動きの検討と研究(情報機器の活用を含む) 9.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)を実演しよう① <ul style="list-style-type: none"> ・脚本に沿っての実演 人形の動かし方の工夫 10.子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)を実演しよう② <ul style="list-style-type: none"> ・演じるタイミングや仲間とのやり取りの工夫(情報機器の活用を含む) 11.「きずなDAY」において、学修成果を発表しよう 12.子どもが楽しむ手作り教材(季節を感じる遊び・日本の年中行事)をまとめよう 13.子どもが楽しむ手作り教材と保育についてまとめる(レポート作成) <ul style="list-style-type: none"> ・実践を収録したビデオの視聴を通して演出について研究討議 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 作品及びそれを活用しての実践で評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 実践と課題レポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>必要に応じてプリント資料を配付します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育課程論 | | |
| 担当者 | 大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、幼稚園教育要領解説書等を中心に「環境を通じた教育」の意義、役割、教育課程の編成、カリキュラムマネジメント等、幼児教育の基本について理解を深めることができるように指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を学び、幼児教育に必要な専門的内容の理解を図るとともに、幼児期における教育の意義を探求します。</p> <p>[到達目標] 教育課程についての意義や編成の方法およびカリキュラム・マネジメントを行う意義について理解することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育所保育指針解説』を熟読してください。 前回の講義内容の理解度テストを行うので、復習をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 受講態度(10%)、レポート(30%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 幼児教育を理解していくためには欠かせない学修であり、教育課程・保育課程は実践の基となるものです。機会をとらえて実際に子どもの指導に取り組もうとする心構えをもって受講して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|-------|
| 授業科目名 (副題) | 教育課程論 |
| 担当者 | 大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基本と教育課程① <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園について ・幼児教育の基本 2. 幼児教育の基本と教育課程②・編成の基本的な考え方 3. 保育内容の変遷と教育課程 4. 幼児期の発達と特性 5. 幼児の遊びと学び①・環境を通して行う教育・主体的・対話的で深い学びとは 6. 幼児の遊びと学び②・幼児教育の「見方・考え方」について 7. 指導計画の作成の基本とその方法①・指導計画の形式と作成手順 8. 指導計画の作成の基本とその方法②・指導計画の作成方法 9. 指導計画の作成の基本とその方法③・評価・改善の考え方 10. 幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント・社会に開かれた教育課程 11. 時代の変化と保育内容①・多様な子供への対応 家庭・地域社会と子育て支援 12. 時代の変化と保育内容②・小学校との連携と接続 13. 幼児教育の基本と学びの復習 <ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の「3つの柱」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及びPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート、小テストで評価します。</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: 授業態度、レポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『就学前教育の計画を学ぶ』 著者名: 松村和子 近藤幹夫 糺島 香代著 出版社: ななみ書房 (978-4-903355-74-0)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育課程論演習 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子、大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、教育課程や指導計画の必要性や指導案を作成できるよう指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 教育課程と指導計画の相互性や、家庭や地域社会との連携を踏まえた幼児教育の特性を理解します。また、幼児が主体的に関わって遊びを展開できるよう具体的な保育指導案を立案、作成する力を付けていきます。</p> <p>[到達目標] 演習を通して、子どもの発達の捉え方や幼児理解を深めていくとともに、教育課程、指導計画についての理論と実際を学び、カリキュラム・マネジメントについての理解を深めることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ノートをしっかり取り、復習をして次の授業に臨むようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト・指導案(60%)、レポート(30%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや作成した指導案は後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 演習を通して指導案が作成できるように、講義の要点を捉えてしっかりノートをとるようにして下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 教育課程論演習 |
| 担当者 | 桐原 美恵子、大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育課程の理解① ・幼児教育の基本的な視点と評価(桐原) 2.教育課程の理解② ・教育課程と指導計画について(大西) 3.教育課程の理解③ ・カリキュラムマネジメントの理解とPDCAサイクル(桐原) 4.教育課程の理解④ ・適切な幼児理解と評価 ・小学校教育との接続 (大西) 5.短期指導計画の作成① ・子どもの姿・ねらい、内容(桐原) 6.短期指導計画の作成② ・幼児の活動と環境の構成(大西) 7.演習 日案の作成 (ゲーム遊び)(桐原) 8.演習 日案の作成 (制作活動)(大西) 9.演習 日案の作成 (自然物を使って)(桐原) 10. 演習 日案の作成 (園外保育指導)(大西) 11. 小学校教育との連携と接続 ・指導要録の役割と記入の仕方 Aクラス(桐原) 12、演習 日案の作成(防災・安全教育についての指導)(大西) 13.PDCAサイクルの展開 ・教育課程の編成、実施、評価、改善への取組についてのテスト・解説 (桐原、大西) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト・</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:指導案、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』 著者名:文部科学省 出版社:チャイルド 本社 (978-4-8054-0299-3)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>『教育実習の手引き』 著者名:神戸女子短期大学</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育原理(教育史及び社会的,制度的又は経営的事項を含む) | | |
| 担当者 | 竹下 正明 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、実践的な視点を交えながら教育の原理について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 教科書の記述を参考にしながら、教育にかかわる制度や学校教育の実状、教育史などを中心に解説を進めます。その際、毎回ワークシートを活用しながら解説を進めます。併せて、授業内容に関係の深い時事問題を取り上げ、ミニ討論などを交えながら、教育の原理についての学びが深まるよう進めます。また、授業で解説することができなかった教科書の内容についてレポートや小論文を課し、教育について自ら調べ考える態度を身に付けると同時に、教育についての幅広い知識や考え方が身に付くよう進めていきます。</p> <p>[到達目標] ①「教育」の営みを原理的に理解することができる。 ②「教育」についての研究や実践を進めていく上で必要な教育諸分野についての基礎知識を習得することができる。 ③「教育」を歴史的な視点から捉えることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各講義に関する資料の収集や、教職を志す者として教育に関わる時事問題について自分の考えをまとめるなど、独自のノート(履修記録)づくりを心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。 小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自分自身の今後を支える本との出会いを求めると同時に、心に残る「教育」場面との出会いを期して自主的に「体験(新聞記事等の情報を含めて)」を求めていくように努めてください。</p> | | | |

| | |
|---|------------------------------|
| 授業科目名 (副題) | 教育原理(教育史及び社会的,制度的又は経営的事項を含む) |
| 担当者 | 竹下 正明 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人はなぜ教育を必要とするか (1)子離れ, 子別れとしての教育 (2)「子育て」としての教育 2.子どもの権利という発想と教育 (1)近代人権思想と子どもの権利 (2)子どもの権利条約の歴史的意義 3.育ち・学びと教育 (1)成長・成熟と「発達」(2)感情と認知の発達 (3)しつけと過保護・過干渉 (4)虐待 4.生涯学習・社会教育 (1)生涯学習 (2)リカレント教育 (3)社会教育のゆくえ 5.学校の歴史① 日本の学校 6.学校の歴史② 欧米の学校・アジアの学校 7.学校制度と関係法令 (1)戦後の学校制度の民主化と関係法令 (2)教育基本法の改正 (3)新教育基本法の構成と内容 8.教育政策, 文部科学省と中央教育審議会 (1)教育政策とは (2)戦後の教育政策の展開 (3)文部省から文部科学省へ (4)中央教育審議会の機構と機能 9.学校のしくみと機能 (1)教育委員会の制度 (2)学校組織と任用身分 (3)チーム学校運営 10.学校をめぐる連携と協働 (1)学校評価について (2)教育における連携と協働 (3)連携・協働のなかの子ども (4)連携と協働における「つなぎ」の機能と課題 11.学校制度と関係法令 (1)学校の統廃合 (2)中高一貫校 (3)学校の多様化 12.学校の安全とリスクマネジメント (1)大阪教育大学附属池田小学校事件と安全 (2)学校保健安全法の制定 (3)学校における危機管理(リスクマネジメント)の考え方 13.教師として成長するには (1)TEACHER—教える人としての成長 (2)CARER—支える人としての成長 (3)HUMAN BEING—人間としての成長 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:小テスト(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『よくわかる教育原理』 著者名:汐見稔幸他編 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05926-3)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総編』 著者名:文部科学省 出版社:株式会社 東洋館出版社 (978-4-491-03461-4)</p> <p>『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総編』 著者名:文部科学省 出版社:株式会社 東出書房 (978-4-8278-1580-1)</p> <p>『幼稚園教育要領(平成29年告示)』 著者名:文部科学省 出版社:株式会社 フレーベル館 (978-4-577-81422-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』 著者名:内閣府/文部科学省/厚生労働省 出版社:株式会社 フレーベル館 (978-4-577-81424-6)</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育実習 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かし、実習生に必要な心構えや保育内容などについて指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 各幼稚園の管理職の講話をはじめ学級担任の指導を受けて、保育参観、保育観察、保育参加、保育実践、研究保育、勤務実習等を行い、保育指導案の作成、実習記録の取り方、幼児理解を含む保育の実際を学びます。また、保育時間外の園務等にも携わり実践的な指導力の向上を図ります。</p> <p>[到達目標] 各幼稚園での教育実習を通じて、保育者の役割についての認識を深め、確かな学級経営力、保育指導力、保育者としての資質を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃より、実際に幼児教育の場に出かけて、実際的な学びを深めるようにしてください。教育実習を控えて、教材研究と資料収集に努めるようにしてください。また、幼児のモデルとなるように、自身の生活態度、生活技術等を見直し、健康管理にも留意してください。</p> <p>[成績評価方法] 実習状況(直前の事前指導、直後の事後指導を含む)(20%)、実習記録(30%)、実習園からの評価資料(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 教育実習記録や現場からの評価を参考にフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 直前の事前指導、直後の事後指導を必ず受けて、自己目標、自己課題をもって意欲的に実習に臨み、事後の実習のまとめも十分に行ってください。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 教育実習 |
| 担当者 | 桐原 美恵子 |
| <p>[授業計画]</p> <p>幼稚園や認定こども園にて3週間の現場実習を行います。</p> <p>1.直前の事前指導(学内)</p> <p>2.実地実習(教育実習受け入れ園にて)</p> <p>教育実習の内容</p> <p>①幼稚園の概要、運営に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員数、幼児数、学級数 ・教育目標、経営方針、職員組織、園務分掌など <p>②学級経営に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児数と状況、通園区域、保育室環境、学級経営方針など <p>③保育に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、指導計画(期、月、週、日)、評価法、教材教具の研究など <p>④家庭・地域社会に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の実態、PTA活動、預かり保育、子育ての支援、保・幼・小連携など <p>⑤教職員の職務に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務規程、勤務の実際、諸願、届の手続きなど <p>教育実習の要領</p> <p>①管理職の講話、担任教員の講話と指導</p> <p>②観察実習・参加実習と担任教員の指導</p> <p>③保育の実践と指導教諭の指導</p> <p>教材研究、保育指導案作成、実習記録(幼児理解を含む)等</p> <p>④保育研究会での現職教員の指導</p> <p>⑤勤務実習(実習期間の通勤中は、教師のつもりで行動する)</p> <p>⑥大学教員の指導</p> <p>3.直後の事後指導(学内)</p> <p>実習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態に関する体験的理解の整理と確認 ・教育実践に対する自覚と自己課題 ・礼状作成 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。</p> <p>成績評価方法:事前・事後指導、実習記録</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて「行動することができる。」</p> <p>成績評価方法:実習園の評価</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『教育実習の手引き』 著者名:神戸女子短期大学</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて文献や資料を配布します。</p> | |

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育実習指導 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子、松岡 恵、大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かし、教育実習に必要な学修や心構えなどを指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習をより多いものにするための幼児理解や観察の視点と方法、教材研究、保育指導案の作成等を学びます。また、実習の記録や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、実習現場でもっとも必要な保育指導力を付けていきます。</p> <p>[到達目標] ① 教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習をより多いものにするための幼児理解や観察の視点と方法、教材研究を行い教育実習への目的意識をもてるようになる。 ② 実習の記録や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、実習現場でもっとも必要な保育指導力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各授業での課題に積極的に取り組み、また事例研究や模擬保育において、自分の考えが語れるよう、幼児教育の基本を明確にしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] レポート(50%)、模擬保育(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して返却します。 履修カルテを作成し、2年次への学修につないでいきます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 教育実習に取り組む意欲と決意を期待しています。</p> | | | |

| | |
|---|-------------------|
| 授業科目名 (副題) | 教育実習指導 |
| 担当者 | 桐原 美恵子、松岡 恵、大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育実習の意義・目的・実習生としての心構え、履修カルテの作成について (担当:桐原) 2.幼児教育の視点と方法 (担当:新任) 3.特別支援教育 (担当:新任) 4.人権教育 (担当:新任) 5.幼稚園実習の実際(実習園・組織体制について、子どもを知る)、実習生としての勤務態度 (担当:桐原) 6.研究保育の映像記録から学ぶ (担当:桐原) 7.模擬保育と相互評価①・自己課題について (担当:桐原) 8.園務運営、幼稚園実習の方法、教員養成と教育実習、実習課題について(担当:大西) 9.幼稚園生活の実際(幼稚園参観) (担当:大西) 10.グループ協議:幼稚園参観での学び (担当:大西) 11.模擬保育と相互評価②・幼児の発達と遊び (担当:大西) 12.指導案の作成と実践について (担当:大西) 13.履修カルテの自己評価、教育実習記録の書き方 (担当:桐原) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:レポート、模擬保育</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法:レポート、模擬保育</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育情報処理演習 | | |
| 担当者 | 平田 真弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園や保育所で必要とされるデータ処理等ができるように、表計算ソフトウェアのエクセルを用いたデータ入力、データ演算、グラフ作成、情報検索の利用などについて学びます。また、プレゼンテーションソフトウェアのパワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成方法などについても学びます。</p> <p>[到達目標] ①エクセルによる基本的な計算処理ができる。 ②エクセルによる基本的なグラフ作成ができる。 ③エクセルによる基本的なデータベース処理ができる。 ④パワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成ができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p> | | | |

| | |
|--|----------|
| 授業科目名 (副題) | 教育情報処理演習 |
| 担当者 | 平田 真弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、表計算ソフトウェアの概要 2. ワークシートの基礎, データ入力 3. 関数と数式の基礎 4. 相対参照と絶対参照 5. グラフの基礎 6. グラフの応用 7. データの並べ替え 8. グラフの読み方と利用 9. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法 10. プレゼンテーションの作成 11. 図・グラフ・表の挿入と編集 12. アニメーション・画面切替・トリミング・背景削除 13. 総合課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【3-1】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p> | |

| | | | |
|---|--------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 教育心理学 | | |
| 担当者 | 松本 麻友子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の発達には、一般化された幾つかのセオリーがあります。児童期にはギャングエイジがあり、青年前期には第二次反抗期があります。また人間には、一般セオリーでは説明できない個人差があります。興味・関心は個人差の典型であり、学習速度や学習スタイルは学習上の個人差です。</p> <p>近年では、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害、学習障害など、発達障害における教科指導や生活指導が教育心理学の大きな課題になっています。</p> <p>学校教育や家庭教育の改善には、指導者や保護者が教育心理学の知見を理解し、教育の在り方を考えることが大切です。本講義では教育心理学の基本用語を習得し、学校教育や家庭教育の実際を学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育心理学の基本用語を理解し、正確に覚えることができる。 2.幼児・児童・生徒の発達や行動を教育心理学的な観点から解釈し、適切な支援と指導ができるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>(予習)</p> <p>事前に配布する資料をもとに疑問点を整理しておいてください。</p> <p>(復習)</p> <p>資料を読み直して重要語句を覚え、教育者として必要な知識を深めてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(70%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストは、後日解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>教職免許取得希望者のみ受講できます。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 教育心理学 |
| 担当者 | 松本 麻友子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは—保育者・教育者が教育心理学を学ぶ意義— 2. 子どもの発達と教育—発達の概念と代表的な理論— 3. 知覚と認知の発達—思考の発達と理論— 4. パーソナリティの発達—パーソナリティの形成と理解— 5. 言語・知的発達—知的発達のメカニズムと測定方法— 6. 社会性の発達(1)親子関係と愛着 7. 社会性の発達(2)遊びと仲間関係 8. 社会性の発達(3)道徳性と向社会的行動 9. 学習の原理(1)学習のメカニズム 10. 学習の原理(2)学習指導と教育評価 11. 学習と動機づけ 12. 学級集団の理解—不応と心理臨床— 13. 学校現場における教育心理学の課題—保育・教育現場における子どもの個人差を理解する— <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:理解度確認テスト(70%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>【2-1】 成績評価方法:理解度確認テスト(70%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] 『教育心理学(よくわかる!教職エクササイズ)』 著者名:森田健宏(監修)・田爪宏二(監修,編集) 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623081776) 『改訂版 たのしく学べる最新教育心理学』 著者名:櫻井茂男(編集) 出版社:図書文化社 (978-4810076905) 『読んでわかる教育心理学(ライブラリ読んでわかる心理学5)』 著者名:多鹿秀継(著) 出版社:サイエンス社 (978-4781914244)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む) | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などの心理社会的テーマの事例を取り上げながら、授業を展開します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>教育相談は、幼児が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。本授業では①教育現場における教育相談の意義と理論を理解する、②教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する、③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することの3点を取り上げます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。 ②支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を習得することができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取り上げるテーマに沿って参考書の指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>グループワークと発表(40%)、ワークシート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートにコメントを付して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>テーマごとにワークシートがあります。授業の内容から自分でテーマに応じた問いや課題を見つけて問題解決する力が伸ばせるように努力して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|------------------------|
| 授業科目名 (副題) | 教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む) |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談とは(オリエンテーション) 2. 幼稚園現場における教育相談の意義と課題の理解 3. 保育参観(一人一人に応じた教育・保育の理解を進めるために) 4. 保育参観(子ども理解と保護者支援を知るために) 5. 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論 6. 幼児の発するシグナルに気づき把握する方法の理解 7. 教育現場におけるカウンセリングマインドの必要性の理解 8. 受容、傾聴、共感的理解などカウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解 9. 幼児の保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方 10. いじめや虐待などに対する幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方 11. 教育相談の計画作成や教師間の連携など、組織的な取り組みの必要性の理解 12. 地域の医療・福祉・心理などの専門機関との連携の意義や必要性の理解 13. 生涯を見通しての教育相談の役割(まとめと総括) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:グループワークと発表(40%)、ワークシート(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>スギ先生と学ぶ教育相談のきほん 著者名:杉崎雅子 出版社:萌文書林 (978-4-89347-315-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『子どもの理解と保育・教育相談』 著者名:小田 豊・秋田喜代美(編) 出版社:(株)みらい (978-4-86015-143-0)</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 教職原論 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、保育者の役割や教育の考え方などについて指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 教育における教員の役割や資質、職務内容等について明らかにしながら、自らどのような教員として成長していけばよいか、その力を付けていく方法や努力について学びます。</p> <p>[到達目標] 求められている教員の役割や職務内容について理解を深めるとともに、教員としての必要な資質や能力を付けていく意欲や態度、方法が修得できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指定された教科書を事前に読んでおくことや、事後には配布プリントやノートの整理をし、教職への理解に努めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト(60%)、レポート(30%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや作成した課題資料などは後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 教職を目指す人のベースになる科目です。意欲的に受講し、教職に対する愛着や教職について学ぶ意欲がさらに高まることを期待しています。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 教職原論 |
| 担当者 | 桐原 美恵子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、「生きる力」を育む教育について理解 2.教育とは何か(3つの教育観から) 3.教職とは何か(教師としての資質能力) 4.日本における教師の歴史 5.現代社会の子ども 6.幼稚園・保育所・認定こども園の生活 と遊び ① ・園の一日と一年と保育者の仕事 7.幼稚園・保育所・認定こども園の生活 と遊び② ・保育の中での遊び ・実習の心得(DVD視聴) 8.幼稚園・保育所・認定こども園の遊び と小学校での学習 9.教師をめぐる現状とこれから ・チーム学校としての対応 ・いじめ、保護者対応その他の課題 10.教師に求められる資質の能力① ・カウンセリングマインド 11.教師に求められる資質の能力② ・気にかかる子ども 12.教師をめぐる法律(服務上・身分上の義務)、教職の専門性と研修 13.«生きる力»の基礎を育成する幼児教育と教師の役割の復習テストと解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト、レポート</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新訂 教職入門』 著者名:古橋和夫(編) 出版社:萌文書林 (978-4-89347-298-4)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 国語 | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、小学校国語科の概要とその指導法や、自らの国語力を向上させることについて指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長を、文字や言葉の習得、そして文から文章へと続く国語的側面から学びます。また、話す、聞く、読む、書くなど多様な活動を取り入れながら、社会人としての言葉を磨くと同時に、幼児を対象とした説明やメッセージなどの表現力を高めることを目指して学びを進めます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①幼児期からの言葉に関する成長過程が理解できる。 ②保育・教育に携わる者としての基本的な言語能力と表現力を習得することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次回の授業のための簡単な課題を出します。これを受講生の自主学習課題とします。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>提出課題(60%)小テスト(20%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日添削して返却します。 小テストは、終了後に解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>自分の日本語を磨きたい人、子どもと言葉の関係に興味がある人が対象です。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 国語 |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語を見直す 2. 国語教育1 入門期 3. 国語教育2 読む・書く 4. 国語教育3 聞く・話す 5. 漢字を学ぶ 6. 書写の世界1 小学校の書写とは 7. 書写の世界2 書写力を高める 8. 敬語を使おう 9. 子どもと言葉1 絵本の世界 10. 子どもと言葉2 ことば遊び 11. 本に親しむ1 ビブリオバトルとは 12. 本に親しむ2 ビブリオバトル体験 13. まとめ 日本語の使い手として <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト 提出課題</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『こくご 一上 かざぐるま』 著者名:光村図書出版 出版社:光村図書出版 (9.78E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『小学校学習指導要領解説国語編』 著者名:文部科学省 出版社:東洋館出版社 (978-4-491-03462-1 C3037)</p> | |

| | | | |
|--|--------------------------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子育て支援 I | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 子育て支援及び児童福祉の実践経験のある教員が指導・ファシリテートします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 演習形式でロールプレイ等参加型の授業を通して、対人援助技術を体得していきます。 | | | |
| [到達目標] 卒業後、保育の現場でそのまま使えるような技術・知識を体得できる。 | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前において、子どもや家族をめぐる問題について広く興味を持ち、理解を深めるように努めてください。 授業後には毎回の授業の内容を振り返るための「ふりかえり用紙」をなるべく授業内容がフレッシュな間に記入し、忘れずに次回の授業始めに提出してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。 | | | |
| [成績評価方法] 授業参加度 40%、ふりかえりレポート 60%。 | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の授業の「ふりかえり」に対してコメントをつけて返却します。 | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [受講生への要望、その他] 参加型の授業であるため、参加する意志のない者、態度のない者については出席とみなさないこともあります。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 子育て支援 I |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(社会福祉援助技術の意味) 2. 自己覚知①:私のPI 3. 自己覚知②:人生曲線 4. 対人援助の視点①:他の人とのつながりと気持ちへの理解 自分以外の人立場になって考える(ワーク) 5. 対人援助の視点②:ソーシャルワークの価値 こういちくんの場合ワーク 6. 対人援助の視点③:共感のワーク 7. 対人援助の視点④:一方向と双方向のコミュニケーション 8. 対人援助の視点⑤:エコロジカル視点 さかなワーク 9. 対人援助の視点⑥:ストレングス視点 10. 対人援助の視点⑦:ケースワークの7原則 11. 非言語コミュニケーション 12. 言語的対応 13. 記録の書き方 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:ふりかえりレポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] 授業中にプリントを配布します</p> <p>[参考文献(ISBN)] 適宜、授業中に紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 子育て支援Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、事例をあげて説明をします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 事例を通して子育て支援を学ぶのと同時に、保育現場でどのような相談支援が行われているのかを理解していきます。</p> <p>[到達目標] ①子育て支援の意義と原則について学び、子育て支援の基本を理解できるようになる。 ②子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解すると共に実践力が持てるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、授業内試験(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験を回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 子育て支援Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子どもの保育とともに行う保護者の支援 3. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 4. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 5. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 6. 子ども及び保護者の状況・状態の把握 7. 支援の計画と環境の構成・支援の実践・記録・評価・カンファレンス 8. 職員間の連携・協働・社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9. 保育所等における支援 10. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 11. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 12. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 13. 子育て支援に関する理解度の確認 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、授業内試験(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>子育て支援—15のストーリーで学ぶワークブック— 著者名: 二宮祐子 出版社: (株)萌文書林 (978-4-89347-284-7 C3037)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭支援の心理学 | | |
| 担当者 | 永井 久美子、松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、事例をあげて説明をします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児期や就学前期の発達を中心に、みなさん自身の年代や子どもの保護者の年代も視野に入れた人生全体の発達の流れについて学びます。そのなかで、乳幼児と関わる保育士に必要な家庭支援に関する知識を学修します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期段階の重要性、発達課題等について理解できるようになる。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できるようになる。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できるようになる。 ④子どもの精神保健とその課題について理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 講義2単位科目：各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(30%)、レポート(40%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>小さい子どもの心の育ちに関心を持ち、意欲的に授業に臨み、わからないことを自分で調べて自ら進んで学びを深めることを期待します。</p> | | | |

| | |
|--|-------------|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭支援の心理学 |
| 担当者 | 永井 久美子、松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井・松岡) 2. 乳幼児期から学童期前期にかけての発達(松岡) 3. 学童期後期から青年期にかけての発達(松岡) 4. 成人期・老年期における発達(松岡) 5. 家族・家庭の意義と機能・親子関係・家族関係の理解(松岡) 6. 子育ての経験と親としての育ち(松岡) 7. 子ども家庭支援に関する理解度の確認(松岡) 8. 子育てを取り巻く社会的状況・ライフコースと仕事・子育て(永井) 9. 多様な家庭とその理解(永井) 10. 特別な配慮を要する家庭(永井) 11. 子どもの生活・生育環境とその影響(永井) 12. 子どもの心の健康に関わる問題(永井) 13. 子ども家庭支援に関する理解度の確認(永井) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト(30%)、レポート(40%)、提出物(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>子育て支援—15のストーリーで学ぶワークブック— 著者名:二宮祐子 出版社:(株)萌文書林 (978-4-89347-284-7 C3037)</p> <p>子ども家庭支援の心理学 著者名:佐久間路子・福丸由佳 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3153-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>未定 著者名:未定 出版社:未定 (未定)</p> | |

| | | | |
|--|----------|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭支援論 | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育士という立場において、子どもとその子どもの養育環境となる家庭を支援するために必要な知識と技術について学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できるようになる。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できるようになる。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解できるようになる。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 子どもと家庭をめぐる社会福祉の政策(マクロ)から個人に対する援助(ミクロ)まで、最新の状況について、新聞やメディアを通して関心を向けておいてください。必ず、授業後には、授業でカバーした範囲の教科書をもう一度、ノートを見直しながら復習してください。そしてわからなかった部分はリフレクションペーパーなどを通して必ず質問してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度(15%)、課題(45%)、理解度確認テスト(40%) で評価します</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 事例研究等では質疑・意見発表も積極的に行っていくため、参加する態度のない学生、他の学生の迷惑となる学生は出席とはみなしませんので、注意してください。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、受講態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> | | | |

| | |
|---|----------|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭支援論 |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 家庭生活のリアリティを把握する視点・家族の変化 3. 家族の機能とジェンダーの視点 4. 地域社会と労働現場の変化・壇上共同参画社会と家庭の平等の具体化 5. 子ども家庭支援のために役立つ法律・制度 6. 子育てサービスの機能とその落とし穴 7. 保育所による子ども家庭支援の実際と支援の方法 8. 子ども虐待・DVの現実と子ども家庭支援 9. 子どもの貧困と家庭支援 10. 「障害のある子」を持つ家族と子ども家庭支援 11. 精神障がいのある保護者と子ども家庭支援 12. 世界の子育て支援から学ぶこと 13. 理解度確認テスト実施と解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『子ども家庭支援論—家族の多様性とジェンダーの理解』 著者名: 浅井春夫 所貞之 編 出版社: 建帛社 (978-4-7679-5118-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜配布</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 家庭支援・子育て支援においてソーシャルワーク実践経験のある教員が現場の事例を用いながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 教科書の内容を中心とするが、適宜、資料を配布して、マクロ(政策・制度面)・ミクロ(対人)的な視点での児童(子ども家庭)福祉について保育士が知っておくべきトピックをおさえていきます。</p> <p>[到達目標] 子どもとその家族に対する専門職に必要な価値・技術・知識をもつことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 子どもと家庭をめぐる社会福祉の政策(マクロ)から個人に対する援助(ミクロ)まで、最新の状況について、新聞やメディアを通して関心を向けておいてください。必ず、授業後には、授業でカバーした範囲の教科書をもう一度、ノートを見直しながら復習してください。そしてわからなかった部分は次の授業で必ず質問してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度 30%、リフレクションペーパー 45%、最終テスト 25%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認テストを回収後、回答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 授業態度の悪い者は出席と認めないことがあります。 私語等、他の学生の迷惑になる人は授業中に退出してもらうことがあります。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 子ども家庭福祉 |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業内容の説明「児童」について 2. 子どもと家庭の権利擁護 3. 親としての義務 4. 子育て家庭支援サービスの考え方 5. 子育て家庭支援サービスの実際 6. 社会的養護と自立支援サービス 7. 児童福祉の法体系と実施主体 8. 子どもへの理解と対応(特別なニーズを持つ子ども) 9. 児童虐待① 予防と支援、介入 10. 児童虐待② 子どもの将来を見据えた支援のあり方 11. 家族に対する支援のあり方:①ポピュレーションアプローチ 12.家族に対する支援のあり方・②特定のニーズに対するアプローチ 13. 子ども家庭福祉に対する理解度確認テスト・解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:リフレクションペーパー、最終テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>よくわかる子ども家庭福祉 著者名:吉田幸恵/山縣文治 出版社:ミネルヴァ書房 (9.78E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|--------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの遊びと文化 | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 作品制作、子どもの遊び支援活動の実践 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの発達に遊びは不可欠であり、子どもの生活になくてはならないものです。子どもの造形表現的な遊びについて実践を通して研究し、遊びの文化について理解を深め、保育実践力の向上を目指します。児童文化財にかかわる活動についての制作に取り組み、研究を深めていきます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①児童文化財について研究し、子どもの遊びと文化について理解を深めることができる。 ②児童文化財の制作と遊びの実践を通して、保育者として子どもたちの遊びを援助することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>子どもの遊びに関心を持ち、日頃から観察に取り組んでください。児童文化財の制作作品が授業時間内に仕上がらなかった場合は、必ず次の授業までに完成させておいてください。各回の講義についての予習・復習を行う各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>提出物(制作作品、ワークシート)(60%)と受講態度・制作態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>制作した作品は振り返りを行い、返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>子どもたちが遊びの活動を楽しむことができるよう、自らも遊びを楽しみ、児童文化財の制作に積極的に取り組んでください。制作した児童文化財を用いて、保育の現場で遊びの発表と実践を行う予定です。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの遊びと文化 |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの遊び・伝承遊び・児童文化財の研究 2. 児童文化財の制作(1)①描く遊び 研究 3. 児童文化財の制作(1)②描く遊び 構想 4. 児童文化財の制作(1)③構想・制作 5. 児童文化財の制作(1)④制作 完成 6. 子どもの遊びと文化・行事①研究 7. 子どもの遊びと文化・行事②実践 8. 児童文化財の制作(2)①作る遊び 研究 9. 児童文化財の制作(2)②構想・制作 10. 児童文化財の制作(2)③制作 11. 作品制作の振り返り、発表の準備 12. 児童文化財の発表と実践①前半 13. 児童文化財の発表と実践②後半 振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:制作作品、ワークシートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの食と栄養 I | | |
| 担当者 | 馬場 幹子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 県行政における管理栄養士としての経験を活かして、子どもの健康・食生活の現状と課題、最新情報また保育所等児童福祉施設における食育、食事管理について幅広く指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 栄養に関する基本的知識を習得し、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの成長段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学びます。</p> <p>[到達目標] ①子どもの食と栄養の特性とその重要性を理解することができる。 ②子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習復習に努め、保育士を目指す学生の素養として、日頃から食に興味を持ち、自らの生活の中で望ましい食生活の実践を心がけるとともに、授業後は授業内容をまとめるようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 受講態度(20%)、授業内レポート(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 食事は、保育活動における重要な柱として位置づけられています。保育者自らが「食」への関心をもち、望ましい食生活の実践を心がけることを望みます。</p> | | | |

| | |
|---|------------|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの食と栄養 I |
| 担当者 | 馬場 幹子 |
| <p>[授業計画]</p> <p>子どもの健康と食生活の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 <p>栄養に関する基本的知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(炭水化物、脂質、たんぱく質) 4. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(ミネラル、ビタミン) 5. 食事摂取基準 6. 献立作成と調理の基本 <p>子どもの発育・発達と食生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 乳児期の心身の特徴と食生活の関係 8. 離乳の意義とその実践 9. 調乳と離乳食(演習) 10. 幼児期の心身の発達と食生活 11. 学童期の心身の発達と食生活 12. 生涯発達と食生活 13. 子どもの健康と食生活の理解 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度20%、授業内レポート30%、小テスト50%</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度20%、授業内レポート30%、小テスト50%</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>最新 保育士養成講座 第8巻『子どもの食と栄養』 著者名: 全国社会福祉協議会編 堤 ちはる他 出版社: 全国社会福祉協議会 (978-4-7935-1311-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの食と栄養Ⅱ | | |
| 担当者 | 馬場 幹子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 県行政における管理栄養士としての経験を活かして、子どもの健康・食生活の現状と課題、最新情報また、保育所等児童福祉施設における食育、食事管理について幅広く指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「子どもの食と栄養Ⅰ」で習得した知識をベースに、食育の進め方、食育を推進するための取り組みについて学習します。また、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解を深めます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 ②家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として食と栄養に関する指導の実践がイメージできるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習復習に努め、保育士を目指す学生の素養として、日頃から食に興味を持ち、自らの生活の中で望ましい食生活の実践を心がけるとともに授業後は授業内容をまとめるようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>受講態度(20%)、授業内レポート(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>子どもの食事について、課題意識をもって意欲的に受講されることを望みます。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの食と栄養Ⅱ |
| 担当者 | 馬場 幹子 |
| <p>[授業計画]</p> <p>食育の基本と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食育における養護と教育の一体性 2. 食育の内容と計画及び評価 3. 食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 4. 食生活指導及び食を通じた保護者への支援 5. 食育の取り組み(食育の計画づくり) 6. 食育の取り組み(食育指導計画案の評価) 7. 食育の実際(演習) <p>家庭や児童福祉施設における食事と栄養</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 家庭における食事と栄養 9. 児童福祉施設における食事と栄養 <p>特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 疾患および体調不良の子どもへの対応 11. 食物アレルギーのある子どもへの対応 12. 障害のある子どもへの対応 13. 食の支援と健康の理解 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度20%、授業内レポート30%、小テスト50%</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度20%、授業内レポート30%、小テスト50%</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: 受講態度20%、授業内レポート30%、小テスト50%</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>最新 保育士養成講座 第8巻『子どもの食と栄養』 著者名: 全国社会福祉協議会編 堤ちはる他 出版社: 全国社会福祉協議会 (978-4-7935-1311-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|-----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの理解と援助 | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの発達や子どもの生活や遊びのありようを通して子ども理解の視点を習得し、子どもを理解する方法や、子ども理解に基づく発達援助を学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できるようになる。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できるようになる。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解できるようになる。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。</p> <p>[成績評価方法] 模擬保育による発表(40%)、ノートの提出(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 模擬保育はグループごとにフィードバックを行い、実習体験を描いたエピソード記述は個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 小さい子どもの心の育ちに関心を持ち、意欲的に授業に臨むことを期待します。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 子どもの理解と援助 |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育における子どもの理解の意義 2.子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 3.子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 4.子どもの生活や遊び 5.保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6.子どもの関係づくりと集団生活における葛藤やつまづき 7.保育の環境の理解と構成および環境の変化や移行 8.子どもの観察・記録・省察・評価の方法 9.職員間の対話 10.保護者との情報の共有 11.発達の課題に応じた援助と関わり 12.特別な配慮を要する子どもの理解と援助 13.発達の連続性と就学への支援およびまとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 模擬保育における発表(40%)、ノートの提出(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『エピソードで学ぶ保育のための心理学-子ども理解のまなざし』 著者名: 塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵 出版社: 新曜社 (978-4-7885-1656-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『保育所保育指針解説書』 著者名: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 算数 | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、小学校算数科の概要とその指導法と、教養としての数学的思考について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼児の遊びや幼稚園での教材に潜む数理的な事柄を学んでいきます。同時に、社会人が身に付けておくべき数学的なものの見方や論理的な思考にかかわる基礎的課題も取り上げます。</p> <p>[到達目標] ①子どもの 数学的概念がどのように形成されていくのかを理解することができる。 ②社会人として必要な数理的教養と数学的なものの見方、論理的思考力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習したことを使ったの簡単な課題を出します。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題は、後日添削して返却します。 小テストは、終了後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 成長に伴う数学的能力の獲得の仕方に興味のある人、自分自身の数学的能力を伸ばしたい人が対象です。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 算数 |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 算数1 入門期 3. 算数2 数と計算 4. 算数3 十進法 5. 算数4 量と測定 6. 算数5 図形 7. 算数6 数量関係 8. 連続量の理解と子どもの発達 9. 度量衡の仕組み 10. 算数の話題(1)面積と体積 11. 算数の話題(2)数量関係 12. 算数の話題(3)統計 13. 算数科へのつながりから見た幼児教育のあり方 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト 提出課題</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『あたらしい さんすう 1① さんすうのとびら』 著者名:東京書籍 出版社:東京書籍 (978-4-487-10441-3 C4341)</p> <p>『あたらしい さんすう 1② さんすう だいすき1』 著者名:東京書籍 出版社:東京書籍 (9784487105427東書102)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『小学校学習指導要領解説算数編』 著者名:文部科学省 出版社:日本文教出版 (9784487105410東書101)</p> | |

| | | | |
|---|----------------------------------|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 社会的養護 I | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 児童福祉現場での実践経験のある教員が事例をあげながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 「子どもの最善の利益」を追求するための社会的養護について、その基本について体系的に学びます。</p> <p>[到達目標] 授業終了後、「子どもの最善の利益」のための社会的養護とは何かを、個々人で考えることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会的養護を巡る現代の状況について、新聞やニュースなどのメディアを通して常に関心を持っており、質問ができるように準備をしておいてください。 授業で疑問に思ったことは質問できるように準備をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度(授業態度)(15%) 理解度確認テスト(65%) 課題(レポート)(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題についてはコメントをつけて返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、授業態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 社会的養護 I |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会的養護の概念① 社会的養護とは何か、養育・養護・保育・ケアの違い 3. 社会的養護の概念②とその体系 社会的養育ビジョンと児童福祉法改正 4. 施設における社会的養護① 社会的養護の現状についての説明 5. 施設における社会的養護② 里親養護と社会的養護 6. パーマネンシープランニング 7. 社会的養護における基本的原則—ウェルビーイング、自立、自己決定、自己実現 8. 施設養護における基本的原則—6つの基本的原則について 9. 社会的養育の在り方とパーマネンシー保障—養子縁組を前提とした養育里親(ビデオ) 10. 社会的養育の在り方とパーマネンシー保障—養育里親(ビデオ) 11. 社会的養護の現状(現場からの声) 12. 社会的養護の現状(実習における学び) 13. 社会的養育の現状と支援に関する理解度確認テスト実施・解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>社会的養護 I 著者名:喜多一憲 出版社:みらい (9.78E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 社会的養護Ⅱ | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 児童福祉現場においてソーシャルワーク経験のある教員が児童福祉施設について現場の事例を用いながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの最善の利益を優先し、社会全体で子どもをはぐくむ社会的養護のあり方を具体的な事例を使いながら学んでいきます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前もって各講義の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。また社会的養護に関連する時事問題についても新聞・テレビ・インターネットなどのメディアを通して理解を深めるようにしておいてください。</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度 15%、リフレクションペーパー30 %、中間レポート 25% 最終レポート30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは評価後にコメントをつけて返却し、解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、授業態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 社会的養護Ⅱ |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 児童福祉施設利用者について① 社会的養護が必要な子ども 3. 児童福祉施設利用者について② 専門的なケアを必要とする子ども 4. 援助の具体的内容① 養護の現場での子どもに対する支援 5. 援助の具体的内容② 子どもの個別性を大切にした支援 6. 援助の具体的内容③ 集団の場での支援 7. 援助の理念① 子どもの最善の利益 8. 援助の理念② 権利擁護 9. 児童福祉施設援助者について① 倫理について(事例をあげて) 10. 児童福祉施設援助者について② 専門的援助技術(事例をあげて) 11. 児童福祉施設援助者について③ ファミリーソーシャルワークの専門技術 12. 事例① パーマネンシー保障に対する支援 13. 事例② 実家族との間に対する支援 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:リフレクションペーパー、中間レポート、最終レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『社会的養護Ⅱ』 著者名:喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編集 出版社:みらい (ISBN9784860154677)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 社会福祉 | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 社会福祉現場において経験のある教員が社会福祉について現場の事例を用いながら講義します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>この講義では、さまざまな社会福祉の領域について触れることにより、社会福祉とは何かを理解することを目的とします。多くの事例や教材をとりあげ、より社会福祉を親しみやすいものにしていきます。また、社会福祉の基礎となる対人援助についても授業で取扱います。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定観念ではなく、独自の理解のなかで社会福祉の考え方とそのイメージをもつことができる。 2. 社会福祉に関わる諸問題、制度、法律などの概要を知ることができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業時間外において、新聞やニュースに関心を向け、社会福祉に関する時事問題をきちんとフォローし、質問を準備しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加度 20%、授業内レポート 40%。最終テスト 40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後にテストの解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>出席されていても受講態度の悪い人は出席としない場合がありますので、注意してください。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 受身でなく積極的に授業に参加してください。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 社会福祉 |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の考え方 2. 社会福祉を取り巻く状況① 少子高齢化 3. 社会福祉を取り巻く状況② 家族の変化と地域福祉 4. 社会福祉のしくみ 制度と法律 5. 社会福祉の機関と施設 6. 社会福祉の援助と方法 ケースワークの方法とソーシャルワーク 7. 公的扶助と社会保障 8. 子ども家庭福祉 9. 高齢者福祉 介護保険のしくみ 10. 障害者福祉 障がいの概念とその考え方 11. 新しい社会福祉の考え方:多様性と共生社会 12. 新しい社会福祉の考え方:権利基盤の社会福祉に 13. 社会福祉全般に対する考察と総論 まとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:授業内レポート、テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『よくわかる社会福祉』 著者名:山縣文治 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623069552)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育 I | | |
| 担当者 | 永井 久美子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験がある者が、その経験を活かして、障害児に対する援助の事例をあげて、説明をします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>一般の保育と障害児保育との連続性に気づき、一人ひとりの発達上の課題に対する援助が障害児への援助にもつながることを理解します。保育場面における具体的な保育方法を学び、保護者への支援についても理解を深めます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解できるようになる。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>障害児に対する保育者の姿勢が他の子どもにも大きな影響を与えます。最も立場の弱い人を大切にする姿勢を子どもたちに示せる保育者になることを目指して、障害児を理解すると共に人としての自分をみつめる授業としてください。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育 I |
| 担当者 | 永井 久美子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 障害児保育を支える理念 ・「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 3. 障害児保育を支える理念 ・障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・指導計画及び個別の支援計画の作成 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・個々の発達を促す生活や遊びの環境 6. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・子ども同士の関わりと育ちあい 7. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・障害児保育における子どもの健康と安全 8. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・職員間の連携・協働 9. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・保護者や家族に対する理解と支援 10. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 11. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関(保育所、児童発達支援センター等)の連携・協働 12. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・小学校等との連携 13. 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題 ・保健・医療、福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりにつながり ・順序は変更する場合があります。 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者のためのテキスト障害児保育』 著者名: 白石正久・近藤直子・中村尚子編 出版社: 全 障研出版部 (978-4-88134-125-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子、末永 美紀子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験がある者が、その経験を活かして、障害児に対する援助の事例をあげて、説明をします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学びます。 | | | |
| [到達目標] ①個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。 | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度。 | | | |
| [成績評価方法] 授業態度(50%)、授業後レポート(50%)で評価します。 | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートを回収後、解説を行います。 | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [受講生への要望、その他] 障害児に対する保育者の姿勢が他の子どもにも大きな影響を与えます。立場の弱い人を大切にする姿勢を子どもたちに示せる保育者になることを目指して、障害児を理解すると共に人としての自分を見つめる授業としてください。 | | | |

| | |
|---|---------------|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子、末永 美紀子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井・末永) 2. 視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児等の理解・援助(末永) 3. 肢体不自由児、てんかんの理解(末永) 4. 重症心身障害児、医療的ケア児の理解(末永) 5. 肢体不自由児、てんかん・重症心身障害児の援助(末永) 6. 医療的ケア児の援助(末永) 7. 障害児保育に関する理解度の確認(末永) 8. 知的障害児(ダウン症を中心に)の理解・援助(永井) 9. 発達障害児の理解(ASD－自閉スペクトラム症等)(永井) 10. 発達障害児の援助(ASD－自閉スペクトラム症等)(永井) 11. 発達障害児の理解(ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)(永井) 12. 発達障害児の援助(ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)(永井) 13. 障害児保育に関する理解度の確認(永井) <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 授業態度(50%)、授業後レポート(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者のためのテキスト障害児保育』 著者名: 白石正久・近藤直子・中村尚子編 出版社: 全 障研出版部 (978-4-88134-125-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子、末永 美紀子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験がある者が、その経験を活かして、障害児に対する援助の事例をあげて、説明をします。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学びます。 | | | |
| [到達目標] ①個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。 | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度。 | | | |
| [成績評価方法] 授業態度(50%)、授業後レポート(50%)で評価します。 | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートを回収後、解説を行います。 | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [受講生への要望、その他] 障害児に対する保育者の姿勢が他の子どもにも大きな影響を与えます。立場の弱い人を大切にする姿勢を子どもたちに示せる保育者になることを目指して、障害児を理解すると共に人としての自分を見つめる授業としてください。 | | | |

| | |
|---|---------------|
| 授業科目名 (副題) | 障害児保育Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子、末永 美紀子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井・末永) 2. 視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児等の理解・援助(末永) 3. 肢体不自由児、てんかんの理解(末永) 4. 重症心身障害児、医療的ケア児の理解(末永) 5. 肢体不自由児、てんかん・重症心身障害児の援助(末永) 6. 医療的ケア児の援助(末永) 7. 障害児保育に関する理解度の確認(末永) 8. 知的障害児(ダウン症を中心に)の理解・援助(永井) 9. 発達障害児の理解(ASD－自閉スペクトラム症等)(永井) 10. 発達障害児の援助(ASD－自閉スペクトラム症等)(永井) 11. 発達障害児の理解(ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)(永井) 12. 発達障害児の援助(ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)(永井) 13. 障害児保育に関する理解度の確認(永井) <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 授業態度(50%)、授業後レポート(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者のためのテキスト障害児保育』 著者名: 白石正久・近藤直子・中村尚子編 出版社: 全 障研出版部 (978-4-88134-125-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|--------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 食育論(子どもと食生活) | | |
| 担当者 | 平田 庸子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業では、まず現代の子どもの食事情についての現状や課題を理解します。さらに食と子どもの健康や病気との関わり、栄養バランスのとれた食べ方について習得します。また子どもたちの心を豊かに育む家庭の味や食文化の大切さを考えます。さらに食育や食に関する新聞記事を収集し、日本や地域における食育の現状を把握して食育に係わる立場としての視野を広げます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食育の必要性を理解することができる。 ②子どもの食と健康の現状を理解することができる。 ③バランスのよい食事のあり方を理解することができる。 ④食事と心の健康の関連性について理解することができる。 ⑤子どもに対する食育の重要性を理解することができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>食育および食に関する新聞記事を探して、情報収集をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(40%)、理解度確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日授業の中で解説し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>将来、食育に係わる立場として、積極的な受講を望みます。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 食育論(子どもと食生活) |
| 担当者 | 平田 庸子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食育の必要性、食育基本法 2. 子どもの食の問題点 3. 子どもの生活習慣と健康(朝食の欠食や偏食) 4. 子どもの肥満と生活習慣病(メタボリックシンドローム) 5. 栄養バランスのとれた食べ方とは(1) 3色食品群、6つの基礎食品 6. 栄養バランスのとれた食べ方とは(2) 主食+主菜+副菜の組み合わせ 7. 食物アレルギーの概要とガイドライン 8. 食物アレルギーの保育所での対応 9. 食の安全と食資源について 10. 日本の食文化と和食のよさ 行事食について 11. 子どもたちに伝えたい食のスキルとマナー 12. 食育および食に関する新聞記事を活用した学習 13. 食育に関する知識と食育への係り方についての理解度の確認 <p>※授業の順番は進行状況によって変わることがあります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート 理解度確認テスト</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現にむけて行動することができる。 成績評価方法: レポート、理解度確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『食育白書』 著者名: 内閣府編 (978-4-906955-35-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>資料として適宜プリントを配布します。</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 食生活基礎技術演習 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子、平田 庸子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かし、幼児や保護者の実態や考え方などを踏まえた保育について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 食育の必要性和保育の場で求められている食育の内容を理解します。またそれぞれの保育の場における給食や弁当の意義、さらに保育の中で取り入れることができる食育・食農の内容について、具体的な進め方について演習を通して習得します。</p> <p>[到達目標] 食育の必要性を理解し、保育者の立場として、具体的に取組まなければならない食育・食農についての知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業の内容の復習として保育指導案の記載や課題等を与えます。自主学習をして、学んだことを自分の力としてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 課題提出、実践(40%)、レポート(40%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや作成した指導案などは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に受講し、基礎技術を深めることを望みます。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 食生活基礎技術演習 |
| 担当者 | 桐原 美恵子、平田 庸子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期における食育の位置づけと取り組み (平田) 2. 保育所・幼稚園での給食や行事を通しての食育 (平田) 3. 保育における食育・食農について① (弁当・給食) (桐原) 4. 保育における食育・食農について② (栽培活動) (桐原) 5. 幼稚園・保育所での食育指導、幼児期の食における問題 (桐原) 6. 演習:食育指導例① (DVD視聴から学ぶ) (桐原) 7. 演習:食育指導例② (食育遊びの実践) (桐原) 8. 演習:食育指導例③ (保育指導案の作成) (桐原) 9. 食育媒体(食育カルタ)の制作①グループでテーマの作成 (桐原) 10.食育媒体(食育カルタ)の制作②字札内容について (桐原) 11.食育媒体(食育カルタ)の制作③字札と絵札について (桐原) 12.食育媒体(食育カルタ)の制作④カルタの作成 (桐原) 13.食育媒体(食育カルタ)の制作④実践の反省と評価 (桐原) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法:レポート、実践</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 食生活基礎技術演習 | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子、平田 庸子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かし、幼児や保護者の実態や考え方などを踏まえた保育について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 食育の必要性和保育の場で求められている食育の内容を理解します。またそれぞれの保育の場における給食や弁当の意義、さらに保育の中で取り入れることができる食育・食農の内容について、具体的な進め方について演習を通して習得します。</p> <p>[到達目標] 食育の必要性を理解し、保育者の立場として、具体的に取組まなければならない食育・食農についての知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業の内容の復習として保育指導案の記載や課題等を与えます。自主学習をして、学んだことを自分の力としてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 課題提出、実践(40%)、レポート(40%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや作成した指導案などは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的に受講し、基礎技術を深めることを望みます。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 食生活基礎技術演習 |
| 担当者 | 桐原 美恵子、平田 庸子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期における食育の位置づけと取り組み (平田) 2. 保育所・幼稚園での給食や行事を通しての食育 (平田) 3. 保育における食育・食農について① (弁当・給食) (桐原) 4. 保育における食育・食農について② (栽培活動) (桐原) 5. 幼稚園・保育所での食育指導、幼児期の食における問題 (桐原) 6. 演習:食育指導例① (DVD視聴から学ぶ) (桐原) 7. 演習:食育指導例② (食育遊びの実践) (桐原) 8. 演習:食育指導例③ (保育指導案の作成) (桐原) 9. 食育媒体(食育カルタ)の制作①グループでテーマの作成 (桐原) 10.食育媒体(食育カルタ)の制作②字札内容について (桐原) 11.食育媒体(食育カルタ)の制作③字札と絵札について (桐原) 12.食育媒体(食育カルタ)の制作④カルタの作成 (桐原) 13.食育媒体(食育カルタ)の制作④実践の反省と評価 (桐原) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法:レポート、実践</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|---|-------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 図画工作 | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 作品の制作 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目指して、自らが描く力や作る力、さらに鑑賞する力を身に付け、深めることをねらいとします。 子どもたちの造形表現活動の支援のための教材研究として、実際に作品を制作する中で保育者として必要なものは何かを、具体的に考察していきます。さまざまな素材、画材、道具に触れ、その使い方や基本的な技法を体験し、安全指導面についても学びます。また、美しいものを美しいと感じる力を高めるために作品の鑑賞にも取り組み、生活や社会の中の形や色に眼を向けます。また絵本などの児童文化にかかわる活動により、言語や造形を総合的に扱う取り組みを行います。 授業では、学びの軌跡の可視化をめざしてテーマごとのワークシートに取り組み、制作した作品とともに、ポートフォリオとしての授業ファイルを作成します。</p> <p>[到達目標] ①子どもの造形の発達や特性について理解を深め、様々な画材や表現方法に触れ、その特質を理解し、子どもの造形表現活動の支援に取り組むことができる。 ②自分の想いや考えを作品として表現することや、グループでの対話や共同制作に積極的に取り組むことができる。 ③子どもたちに表現の楽しさを伝えることができるよう、自らも造形表現活動に関心を持ち、楽しむことができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で学んだ内容を毎回振り返り復習し、ワークシートへの活動の記録と授業ファイルの整理に取り組んでください。 授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の回までに仕上げておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 制作作品の提出(50%)、ワークシートと授業ファイルの提出(40%)、受講態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 制作した作品については、展示を経て返却時にフィードバックを行います。毎回のテーマごとに取り組んだワークシートは授業内で振り返りを行った後に返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 各自で基本的な画材(図画鉛筆、水性絵具セット)の準備をしてください。詳しくは授業にて説明します。</p> | | | |

| | |
|---|-------|
| 授業科目名 (副題) | 図画工作 |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察して描く 研究・実践 2. 観察して描く 制作 3. 版画の表現 実践①個人制作 4. 版画の表現 実践②グループ活動 5. 立体の表現 工作の研究・実践 6. 立体の表現 実践①個人制作 7. 立体の表現 実践②グループ活動とその展開 8. 道具の使い方と安全指導・色彩について 9. 子どもの造形表現活動支援について 10. 立体的に描く 研究 11. 立体的に描く 実践①下絵 12. 立体的に描く 実践②彩色 13. 作品の展示と鑑賞、学びのまとめとふりかえり <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ワークシートと授業ファイルで評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 制作作品、ワークシートで評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p> <p>『美術資料』 著者名: 京都市立芸術大学美術教育研究会 出版社: 秀学社 『幼児の造形ニューヒット教材集1 絵画・造形あそび編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031712-7) 『幼児の造形ニューヒット教材集2 手づくりおもちゃ・立体造形編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031816-2)</p> | |

| | | | |
|---|-------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 図画工作 | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 作品の制作 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目指して、自らが描く力や作る力、さらに鑑賞する力を身に付け、深めることをねらいとします。 子どもたちの造形表現活動の支援のための教材研究として、実際に作品を制作する中で保育者として必要なものは何かを、具体的に考察していきます。さまざまな素材、画材、道具に触れ、その使い方や基本的な技法を体験し、安全指導面についても学びます。また、美しいと感じる力を高めるために作品の鑑賞にも取り組み、生活や社会の中の形や色に眼を向けます。また絵本などの児童文化にかかわる活動により、言語や造形を総合的に扱う取り組みを行います。 授業では、学びの軌跡の可視化をめざしてテーマごとのワークシートに取り組み、制作した作品とともに、ポートフォリオとしての授業ファイルを作成します。</p> <p>[到達目標] ①子どもの造形の発達や特性について理解を深め、様々な画材や表現方法に触れ、その特質を理解し、子どもの造形表現活動の支援に取り組むことができる。 ②自分の想いや考えを作品として表現することや、グループでの対話や共同制作に積極的に取り組むことができる。 ③子どもたちに表現の楽しさを伝えることができるよう、自らも造形表現活動に関心を持ち、楽しむことができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で学んだ内容を毎回振り返り復習し、ワークシートへの活動の記録と授業ファイルの整理に取り組んでください。 授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の回までに仕上げておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 制作作品の提出(50%)、ワークシートと授業ファイルの提出(40%)、受講態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 制作した作品については、展示を経て返却時にフィードバックを行います。毎回のテーマごとに取り組んだワークシートは授業内で振り返りを行った後に返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 各自で基本的な画材(図画鉛筆、水性絵具セット)の準備をしてください。詳しくは授業にて説明します。</p> | | | |

| | |
|---|-------|
| 授業科目名 (副題) | 図画工作 |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察して描く 研究・実践 2. 観察して描く 制作 3. 版画の表現 実践①個人制作 4. 版画の表現 実践②グループ活動 5. 立体の表現 工作の研究・実践 6. 立体の表現 実践①個人制作 7. 立体の表現 実践②グループ活動とその展開 8. 道具の使い方と安全指導・色彩について 9. 子どもの造形表現活動支援について 10. 立体的に描く 研究 11. 立体的に描く 実践①下絵 12. 立体的に描く 実践②彩色 13. 作品の展示と鑑賞、学びのまとめとふりかえり <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ワークシートと授業ファイルで評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 制作作品、ワークシートで評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p> <p>『美術資料』 著者名: 京都市立芸術大学美術教育研究会 出版社: 秀学社 『幼児の造形ニューヒット教材集1 絵画・造形あそび編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031712-7) 『幼児の造形ニューヒット教材集2 手づくりおもちゃ・立体造形編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031816-2)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 生活 | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、小学校生活科の概要とその指導について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園・保育所で培った学ぶ楽しさをベースに体験や活動から学びを広げていく、低学年における小学校教育の中心となる教科が生活科です。教師の創意工夫による活動や支援の在り方と、児童の成長を学びます。また、幼小の連携・接続についての理解を深めていきます。</p> <p>[到達目標] ①「生活科」を創るための指導計画の作成や指導の在り方、教材研究・教材開発の進め方を理解することができる。 ②小学校のスタートカリキュラムについての理解を深め、幼児期からの接続を考慮した指導の在り方を学ぶことで、保育者としての資質を高めることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次時の予告に合わせて探したり調べたり、または作成したりといった準備をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出課題(60%)小テスト(20%)授業態度(20%) で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出課題は、後日添削して返却します。 小テストは、終了後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 保育がどうあるべきかを、次のステップである小学校との接続からも考えたいと願っている人が対象です</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 生活 |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生活科」とは 2. 学年目標の設定と指導計画の作成 3. 学年ごとの内容設定 4. 実践例1 がっこうともだち 5. 実践例2 もうすぐ2ねんせい 6. カリキュラムマネジメントとは 7. 実践例1 レッツゴー まちたんけん 8. 実践例2 つくろう あそぼう くふうしよう 9. スタートプログラムとは 10. 生活科で扱う教材 11. 生活科の教材研究と教材開発 12. 生活科における評価 13. 「生活科」に期待するもの <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『わくわく せいかつ 上』 著者名: 啓林館 出版社: 啓林館 (9.78E+12)</p> <p>『いきいき せいかつ 下』 著者名: 啓林館 出版社: 啓林館 (9.78E+12)</p> <p>『小学校学習指導要領解説生活編』 著者名: 文部科学省 出版社: 東洋館出版社 (978-4-491-03464-5 C3037)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|--------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 造形表現研究 | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 作品の制作 | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>造形表現の理解を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な知識や技能の研究と、保育者としての造形表現力を「ものづくりの楽しさ」を体験しながら実践を通して深めます。実際に作品を制作していく中で、子どもの造形表現活動の援助に必要なさまざまな要素を自ら見つけ出し学んでいきます。</p> <p>授業では、学びの軌跡の可視化をめざしてテーマごとのワークシートに取り組み、制作した作品とともに、ポートフォリオとしての授業ファイルを作成します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>保育者としての造形表現力を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から子どもの造形表現活動に関心を持ち、造形作品展などの鑑賞の機会を持ってください。授業内に作品が完成しなかった場合は、次回授業までに取り組んでおいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>制作作品(50%)、ワークシートと授業ファイル(40%)の提出物と受講態度・制作態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>制作作品は展示・鑑賞活動の後、振り返りを行い返却します。各テーマごとのワークシートは授業内に振り返りを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>造形表現活動を自ら楽しみながら取り組んでください。各自で画材(図画鉛筆)と、リサイクル作品材料の準備をしてください。詳しくは授業にて説明します。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 造形表現研究 |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り①研究 2. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り②制作・基礎 3. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り③制作・平面 4. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く①研究 5. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く②実践 6. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く③発表 7. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る①研究 8. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る②実践 9. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る③実践と展開 10. 子どもの造形表現活動事例研究①多様な造形表現活動 11. 子どもの造形表現活動事例研究②レッジョ・エミア事例研究 12. 作品の展示と鑑賞・記録①ドキュメンテーション 13. 作品の展示と鑑賞・記録②発表 振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 制作作品、ワークシートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『美術資料』 著者名: 京都市立芸術大学美術教育研究会 出版社: 秀学社 『幼児の造形ニューヒット教材集1 絵画・造形あそび編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031712-7) 『幼児の造形ニューヒット教材集2 手づくりおもちゃ・立体造形編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031816-2)</p> | |

| | | | |
|--|--------|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 特別支援教育 | | |
| 担当者 | 土居下 晃宏 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼児一人一人のニーズがあることを理解し、それぞれの幼児に寄り添えるような対応や支援方法について探求し学んでいきます。</p> <p>[到達目標] 特別の支援を必要とする幼児への理解と組織的な対応や知識、支援方法について理解することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを回収後、解答の解説をします。 レポートは、後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 積極的な態度で授業に臨んでください。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 特別支援教育 |
| 担当者 | 土居下 晃宏 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育とは① ・オリエンテーション 特別支援教育について 2. 特別支援教育とは② ・インクルーシブ教育について 3. 特別な配慮を必要とする幼児の理解① ・幼児期の特性と発達 4. 特別な配慮を必要とする幼児の理解② ・子供の課題について(社会性の課題) 5. 特別な配慮を必要とする幼児の理解③ ・子供の課題について(行動面での課題) 6. 特別な配慮を必要とする幼児の理解④ ・ケースから①(T. K児) 7. 特別な配慮を必要とする幼児の理解⑤ ・ケースから②(H. S児) 8. 保護者の理解 9. 保育者として大切にしたいこと 10. 特別な支援を必要とする幼児への支援①・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」 11. 特別な支援を必要とする幼児への支援② ・「個別の指導計画」の作成 12. 幼稚園の実際(保育参観) 13. 特別な支援を必要とする幼児への支援③ ・関係機関との連携と小学校への接続 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト(50%),レポート(40%),授業態度(10%)で評価します ・</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜資料を配布する</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)及び『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府/文部科学省/厚生労働省 『保育所保育指針』(平成29年3月告示)及び『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 乳児保育 I | | |
| 担当者 | 永井 久美子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、3歳未満児の援助や関わり等を指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 乳児保育の変遷を知り、乳児保育の基本を理解します。乳児の発達と保育について学び、大人の援助のあり方について考えます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できるようになる。 ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことをノートにまとめてください。 講義2単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 子どもの発達をおさえること、遊びを通して子どもがいかに育つか、保育者としてどうかかわればよいのかを一緒に考えていきます。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 乳児保育 I |
| 担当者 | 永井 久美子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 3. 乳児保育の役割と機能 4. 乳児保育における養護及び教育 5. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 6. 保育所における乳児保育 7. 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 8. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 9. 3歳未満児の生活と環境、3歳未満児の遊びと環境 10. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 12. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 13. 乳児保育における連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> ①職員間の連携・協働 ②保護者との連携・協働 ③自治体や地域の関係機関等との連携・協働 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『コンパス乳児保育』 著者名: 咲間まり子 出版社: 建帛社 (978-4-7679-5063-1)</p> <p>『保育所保育指針』 出版社: 株式会社フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『保育所保育指針解説書』 著者名: 厚生労働省編 出版社: 株式会社フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 乳児保育Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子、永井 美佳 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、3歳未満児の発達・発育を踏まえた援助を指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] 乳児保育の変遷を知り、乳児保育の基本を理解します。乳児の発達と保育について学び、大人の援助のあり方について考えます。 | | | |
| [到達目標] ①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解できるようになる。 ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解できるようになる。 ③乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解できるようになる。 ④上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できるようになる。 | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。 機会をとらえて乳幼児を見たり触れ合えたりする経験をし、教科書の理論と結びつけて子どもの実際の姿を認識できるようにしておいてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 | | | |
| [成績評価方法] 授業態度(20%)、各時間の課題(50%)、レポート(30%)で評価します。 | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は回収後、解説を行います。 | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [受講生への要望、その他] 子どもが発達していくすじみちを理解すること、遊びを通して子どもがいかに育つか、保育者としてどのように援助していくのが望ましいのかを一緒に考えていきます。 | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 乳児保育Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子、永井 美佳 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井久美子・永井美佳) 2. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境(永井美佳) 3. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成(永井美佳) 4. 子ども同士の関わりとその援助の実際(永井美佳) 5. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮(永井美佳) 6. 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮(永井美佳) 7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際(永井美佳) 8. 子どもの保育士等との関係の重要性(永井久美子) 9. 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり(永井久美子) 10. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち、子どもの体験と学びの芽生え(永井久美子) 11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際(永井久美子) 12. 長期的な指導計画と短期的な指導計画(永井久美子) 13. 個別的な指導計画と集団の指導計画(永井久美子) <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法：授業態度(20%)、各時間の課題(50%)、レポート(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新指針・要領からみる 0歳児から主体性を育む保育のQ&A』 著者名：西川正晃 大橋美智子 出版社：株式会社みらい (978-4-86015-469-1 C3037)</p> <p>『保育所保育指針』 出版社：株式会社フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『保育所保育指針解説書』 著者名：厚生労働省編 出版社：株式会社フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|--------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 伴奏法 | | |
| 担当者 | 小松原 祥子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] | | | |
| <p>歌詞のイントネーション、旋律のアーティキュレーション、フレージング、リズム、ハーモニーなどあらゆる面から楽曲を理解し、音楽的な演奏ができるよう学習します。課題に対して、旋律のコード伴奏付け、弾き歌い、合唱伴奏、打楽器を用いた楽器遊び、リトミックの実践など様々な保育場面での展開を想定した演奏を学びます。最終的に、創造的な伴奏法として、劇遊びにイメージに合った音楽を付ける活動を行います。</p> | | | |
| [到達目標] | | | |
| <p>①コード伴奏付けができるようになる。 ②音楽的な弾き歌いができるようになる(簡易伴奏含む)。 ③保育の場面を想定した音楽活動ができるようになる。</p> | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] | | | |
| <p>毎回の課題は、必ず目を通し、歌詞の理解と演奏練習を行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> | | | |
| [成績評価方法] | | | |
| <p>発表形式実技テスト(40%)、発表(30%)、授業中の取り組み、技術力などによる平常点(30%)で評価します。</p> | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] | | | |
| <p>実技テスト終了後、講評を行います。</p> | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] | | | |
| <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> | | | |
| [メールアドレス] | | | |
| <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> | | | |
| [受講生への要望、その他] | | | |
| <p>毎回の授業には課題の楽曲を歌い、伴奏できるよう十分練習する必要があります。初回の授業には『続こどものうた』を持参して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 伴奏法 |
| 担当者 | 小松原 祥子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション コード伴奏について 2. シンプルなコードでできる子どもの歌の伴奏付け、弾き歌いの指導 3. シンプルなコードでできる子どもの歌の合唱伴奏(保育現場を想定しての導入から仕上げまで、リトミックや打楽器を用いた楽器遊びの実践) 4. 発展的なコードによる子どもの歌の伴奏付け、弾き歌いの指導 5. 発展的なコードによる子どもの歌の合唱伴奏(保育現場を想定しての導入から仕上げまで、リトミックや打楽器を用いた楽器遊びの実践) 6. 様々な調による子どもの歌の伴奏付け、弾き歌いの指導 7. 様々な調による子どもの歌の合唱伴奏(保育現場を想定しての導入から仕上げまで、リトミックや打楽器を用いた楽器遊びの実践) 8. 1～7回で修得した作品の中から演奏発表 9. 子どもの歌による3～5歳のリトミック 指導 10. 子どもの歌による3～5歳のリトミック 模擬保育 11. 劇遊びの伴奏の構想 12. 劇遊びの伴奏のレッスン 13. 劇遊びの伴奏の発表 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:発表(30%)</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:授業中の取り組み、技術力などによる平常点(30%)発表形式実技テスト(40%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『こどものうた 200』 著者名:小林美実編 出版社:チャイルド本社 (4-8054-8100-5)</p> <p>『続こどものうた 200』 著者名:小林美実編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0002-9)</p> <p>その他プリント配布</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『表現のためのピアノ曲集』 著者名:小阪恵一 出版社:全音楽譜出版社 (4-11-170-383-6 C3073)</p> <p>『保育の先生・学生さんへ 3つのコードで楽しく弾ける♪ ピアノ伴奏曲集』 著者名:伊藤伸明編 出版社:ドレミ楽譜出版社 (978-4-285-14461-1)</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) | | |
| 担当者 | 川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、保育者としての意義を高めていけるよう指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園現場での実習を振り返り、体験を通しての気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。グループ討論等での意見交換を通して、子どもの興味・関心をとらえ、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、小グループの授業において、指導案の検討、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[到達目標] ①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めることができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力、また、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質を向上することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼児教育の場に出かけたりして実際的な学びを深めていきます。事前にその授業のねらいを把握し、自己の課題を明確にしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講状況(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自己目標・自己課題をもって意欲的に授業に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|----------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) |
| 担当者 | 川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割・これまでの学修の振り返りについての講義と自己評価(桐原・川村・大西・新任) 2. 教育実習体験をもとにしたこれまでの履修や活動の振り返りと自己評価・自己課題についてグループ討論(桐原・川村・大西) 3. 子ども理解の方法と実践(新任) 4. 気になる子どもの行動の理解と対応(新任) 5. 幼稚園現場での保育(保育参観)(桐原・川村・大西) 6. グループ討論(参観からの学び)(桐原・川村・大西) 7. 幼稚園での遊びの実践について講義(学外特別講師) 8. 現職教員から学ぶ:幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師) 9. 自然環境について講義(学外特別講師) 10. グループによる事例研究・指導案作成、教育実習のフィードバック(桐原・川村・大西) 11. 模擬保育、グループ討論(グループ相互の評価)(桐原・川村・大西) 12. 震災・命について講義(学外特別講師) 13. 保育者へのスタートを目指して自己課題確認と評価、レポート・履修カルテ作成(桐原・川村・大西) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法:レポート、実践(模擬保育)</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協議しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-814447-5) 『保育所保育指針解説書』 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2) 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、保育者としての意識を高めていけるよう指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園現場での実習を振り返り、体験を通しての気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。グループ討論等での意見交換を通して、子どもの興味・関心をとらえ、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、小グループの授業において、指導案の検討、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[到達目標] ①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めることができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力、また、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質を向上することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼児教育の場に出かけたりして実際的な学びを深めていきます。事前にその授業のねらいを把握し、自己の課題を明確にしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講状況(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自己目標・自己課題をもって意欲的に授業に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|----------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) |
| 担当者 | 桐原 美恵子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割・これまでの学修の振り返りについての講義と自己評価 (桐原・川村・大西・新任) 2. 教育実習体験をもとにしたこれまでの履修や活動の振り返りと自己評価・自己課題についてグループ討論 (桐原・川村・大西) 3. 子ども理解の方法と実際 (新任) 4. 気になる子どもの行動の理解と対応 (新任) 5. 幼稚園現場での保育(保育参観) (桐原、川村、大西) 6. グループ討論(参観からの学び) (桐原、川村、大西) 7. 幼稚園での遊びの実践について講義 (学外特別講師) 8. 現職教員から学ぶ: 幼稚園運営と幼小連携等について講話 (学外特別講師) 9. 自然環境について講義 (学外特別講師) 10. グループによる事例研究・指導案の作成、教育実習のフィードバック (桐原・川村・大西) 11. 模擬保育、グループ討論(グループ相互の評価) (桐原・川村・大西) 12. 震災・命について講義 (学外特別講師) 13. 保育者へのスタートを目指して自己課題確認と評価、レポート・履修カルテ作成(桐原・川村・大西) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: レポート、実践(模擬保育)</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: レポート、履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-814447-5) 『保育所保育指針解説書』 著者名: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2) 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、保育者としての意識を高めていけるよう指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園現場での実習を振り返り、体験を通しての気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。グループ討論等での意見交換を通して、子どもの興味・関心をとらえ、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、小グループの授業において、指導案の検討、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[到達目標] ①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めることができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力、また、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質を向上することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼児教育の場に出かけたりして実際的な学びを深めていきます。事前にその授業のねらいを把握し、自己の課題を明確にしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講状況(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自己目標・自己課題をもって意欲的に授業に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|----------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割・これまでの学修の振り返りについての講義と自己評価 (桐原・川村・大西・新任) 2. 教育実習体験をもとにしたこれまでの履修や活動の振り返りと自己評価・自己課題についてグループ討論 (桐原・川村・大西) 3. 子ども理解の方法と実際 (新任) 4. 気になる子どもの行動の理解と対応 (新任) 5. 幼稚園現場での保育(保育参観) (桐原、川村、大西) 6. グループ討論(参観からの学び) (桐原、川村、大西) 7. 幼稚園での遊びの実践について講義 (学外特別講師) 8. 現職教員から学ぶ: 幼稚園運営と幼小連携等について講話 (学外特別講師) 9. 自然環境について講義 (学外特別講師) 10. グループによる事例研究・指導案の作成、教育実習のフィードバック (桐原・川村・大西) 11. 模擬保育、グループ討論(グループ相互の評価) (桐原・川村・大西) 12. 震災・命について講義 (学外特別講師) 13. 保育者へのスタートを目指して自己課題確認と評価、レポート・履修カルテ作成(桐原・川村・大西) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: レポート、実践(模擬保育)</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: レポート、履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-814447-5) 『保育所保育指針解説書』 著者名: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2) 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) | | |
| 担当者 | 大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場の教員経験がある者が、その経験を活かし、参観や模擬授業を通して具体的な子どもの姿から「環境の構成」や「保育者の援助・役割」について考え、実践の場で活かすことができる保育実践力に繋がる知識・技能を指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園現場での実習を振り返り、体験を通しての気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。グループ討論等での意見交換を通して、子どもの興味・関心をとらえ、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、小グループの授業において、指導案の検討、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[到達目標] ①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めることができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力、また、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質を向上することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼児教育の場に出かけたりして実際の学びを深めていきます。事前にその授業のねらいを把握し、自己の課題を明確にしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講状況(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自己目標・自己課題をもって意欲的に授業に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|----------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育・教職実践演習(幼稚園) |
| 担当者 | 大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割・これまでの学修の振り返りについての講義と自己評価(桐原・川村・大西・新任) 2. 教育実習体験をもとにしたこれまでの履修や活動の振り返りと自己評価・自己課題についてグループ討論(桐原・川村・大西) 3. 子ども理解の方法と実際(新任) 4. 気になる子どもの行動の理解と対応(新任) 5. 幼稚園現場での保育(保育参観)(桐原・川村・大西) 6. グループ討議(参観からの学び)(桐原・川村・大西) 7. 幼稚園での遊びの実践について講義(学外特別講師) 8. 現職教員から学ぶ: 幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師) 9. 自然環境について講義(学外特別講師) 10. グループによる事例研究・指導案の作成、教育実習のフィードバック(桐原・川村・大西) 11. 模擬保育、グループ討論(グループ相互の評価)(桐原・川村・大西) 12. 震災・命について講義(学外特別講師) 13. 保育者へのスタートを目指して自己課題確認と評価、レポート・履修カルテ作成(桐原・川村・大西) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 成績評価方法: レポート、実践(模擬保育)</p> <p>【3-2】多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: レポート、履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-814447-5) 『保育所保育指針解説書』 著者名: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2) 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育カウンセリング | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などの心理社会的テーマの事例を取り上げながら、授業を展開します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 子どもが心を開放して自己表現できるような支援の仕方、および保護者と信頼関係を結ぶためのカウンセリングに基づいた技法を習得し、実践的取り組みをします。</p> <p>[到達目標] ①子どもや保護者との関わりにおける受容・共感的な態度をとることができる。 ②保護者との円滑にコミュニケーションできる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次回のテーマについて関連する社会問題を新聞等で探して予習をしてください。また、授業後は、復習として配布資料を再度よく読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 学びのレポート(50%)、学外活動への取り組みと提出物(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートを添削して後日返却します。 学びの成果物を保育園保護者の前で発表し、受講生と参加者全員(保育園保護者と教員含む)で成果について講評しあいます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 人の援助をする仕事に携わる場合、対象者に対して、重い責任が発生します。授業を通して、まず自己研鑽をする気持ちを持って臨んでください。</p> | | | |

| | |
|--|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 保育カウンセリング |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 自分を知る: パーソナリティ・テストを用いて 3. 他者を知る: 価値観の違いを受け止め合う 4. 子どもの心の世界を知る(事例検討) 5. 子どもの自己表現を支援する(実践)①子どもの遊びの観察を通して 6. 子どもの自己表現を支援する(実践)②子ども同士で生じるいざこざの観察を通して 7. 子どもの自己表現を支援する(振り返り) 8. 保護者の支援(効果的なコミュニケーション法を学ぶ)①現代の子育て事情を知る 9. 保護者の支援(効果的なコミュニケーション法を学ぶ)②新聞記事を調べる 10. 保護者との関わり(実践)③保護者へのインタビューの企画 11. 保護者との関わり(実践)④保護者へのインタビューの実践 12. 保護者との関わり(振り返り) 13. 保育カウンセリングをめぐる諸問題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 学びのレポート(50%)、学外活動への取り組みと提出物(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 必要により資料を配布します。</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 保育原理 | | |
| 担当者 | 川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での実務経験を活かして、保育の意義、目的等、保育原理の指導を行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育の意義、目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について学んでいきます。また、保育の思想、歴史的変遷、保育の現状と課題についても学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> | | | |

| | |
|--|-------|
| 授業科目名 (副題) | 保育原理 |
| 担当者 | 川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義と目的 2. 保育の社会的役割と責任 3. 保育に関する法令と制度 4. 日本における保育の思想と歴史①近代 5. 日本における保育の思想と歴史②戦後 6. 保育所保育指針における保育の基本 7. 保育を基礎から考える 8. 哲学実践の基本 9. 保育を多角的に考える 10. 保育における養護 11. 保育の環境・方法 12. 諸外国の保育の現状と課題 13. 日本の保育の現状と課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート及び課題、小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『哲学する保育原理』 著者名: 伊藤潔志(編) 出版社: 教育情報出版 (978-4-909378-00-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『保育所保育指針』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81422-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81424-6)</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習 I (施設) | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 社会福祉現場において経験のある教員が社会福祉について現場の事例を用いながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解します。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養います。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的について学びます。 <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できる。 ②既習の強化全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。 ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分が行く予定の施設について事前に教科書や関連図書等で事前に必要な知識を付けておくこと。 また、簡単な家事技術についても実習では必要なので身に付けておいてください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>評価について個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>実際に施設現場を経験する初めての实習です。保育士としての自覚を持ち、子どもたちと現場の職員の方々に敬意を払い実習に励んでください。</p> | | | |

| | |
|--|-------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習 I (施設) |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設についての理解を行う 2. 養護の一日の流れの理解と参加 3. 子どもの観察やかかわりを通して、参加 4. 援助計画を理解する 5. 生活や援助など的一部分を担当し、養護技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解をする 7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する 8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ 9. 保育士としての職業倫理を理解する 10. 安全および疾病予防への配慮について理解する <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 提出物、実習日誌、実習施設からの評価</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習 I (保育所) | | |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] クラスに配属され、子どもに直にふれるとともに、保育士による保育及び子ども並びに保護者との関わりを観察します。 部分実習をします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育所の役割や機能を具体的に理解できるようになる。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解できるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できるようになる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 資料を自ら探し、教材研究に取り組んでおいてください。</p> <p>[成績評価方法] 実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 先輩保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収して下さい。また、子どもの良いモデルとなれるようことば遣い、態度、所作に注意して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習 I (保育所) |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> ① 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり ② 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの観察とその記録による理解 3. 子どもの発達過程の理解 4. 子どもの援助や関わり 5. 保育の計画に基づく保育内容 6. 子どもの発達過程に応じた保育内容 7. 子どもの生活や遊びと保育環境 8. 子どもの健康と安全 9. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> ① 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 ② 記録に基づく省察・自己評価 10. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携・協働 ③ 保育士の役割と職業倫理 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] クラスに配属され、子どもに直にふれるとともに、保育士による保育及び子ども並びに保護者との関わりを観察します。 部分実習、全日実習をします。</p> <p>[到達目標] ①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができるようになる。 ②子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めることができるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができるようになる。 ⑥実習における自己の課題を明確化することができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 資料を自ら探し、教材研究に取り組んでおいてください。</p> <p>[成績評価方法] 実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 先輩保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収して下さい。また、子どもの良いモデルとなれるようことば遣い、態度、所作に注意して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護と教育が一体となって行われる保育 2. 保育所の社会的役割と責任 3. 子どもの心身の状態や活動の観察 4. 保育士等の援助や関わり 5. 保育所の生活の流れや展開の把握 6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 ②入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③関係機関や地域社会との連携・協働 7. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 8. 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 9. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①多様な保育の展開と保育士の業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理 10. 自己の課題の明確化 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習Ⅲ | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 児童福祉領域で実践経験のある教員が事例を挙げながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| [授業全体の内容の概要] | | | |
| 1. 施設の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。 | | | |
| 2. 家族と施設の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要な能力を養います。 | | | |
| [到達目標] | | | |
| ①児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。 | | | |
| ②家族と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことができる。 | | | |
| [準備学修(予習・復習)の内容・時間] | | | |
| 自分の実習先について事前に調べておき知識を付けておいてください。 | | | |
| 将来、施設保育士として働くための知識・技術・価値を常に得ることを目的として学ぶ姿勢を持っておいてください。 | | | |
| [成績評価方法] | | | |
| 事前・事後指導を含む事前の準備(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。 | | | |
| [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] | | | |
| 実習評価について個別にフィードバックを行います。 | | | |
| [オフィスアワー(質問等の受付方法)] | | | |
| 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [メールアドレス] | | | |
| 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 | | | |
| [受講生への要望、その他] | | | |
| 受講生は施設保育士を目指す人のみが対象となります。必ず事前に担当教員と面談をしたうえで履修して下さい。 | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習Ⅲ |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護全般への参加と養護技術を習得を行う。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 3. 援助計画を立案し、実際に実践する。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。 6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。 8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 実習ノート、実習施設からの評価</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導 I (事後) | | |
| 担当者 | 永井 久美子、畠山 由佳子、川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かし、保育実習の振り返りを行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育実践に役立つ知識と技能の習得を図ります。</p> <p>[到達目標] ①保育実習 I・II で学んだことを土台とし、保育者としての知識、技術を身に付けることができるようになる。 ②実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 資料を自ら探し、教材研究に取り組んでおいてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 学生自身が主体的に自己の体験を考察していく授業です。具体的な目的を持って参加すること。自分を磨くことは子どもの笑顔、子どもの傍にいる大人の笑顔につながります。ここから一歩踏み出してください。</p> | | | |

| | |
|---|---------------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導 I (事後) |
| 担当者 | 永井 久美子、畠山 由佳子、川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井・川村) 2. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価①自己評価(川村) 3. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価②フィードバック(川村) 4. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価③自己課題の明確化(川村) 5. 保育実習(保育所)課題の明確化④フィードバック・⑤学びの共有(川村) 6. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価①自己評価(永井) 7. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価②フィードバック(永井) 8. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価③自己課題の明確化(永井) 9. 保育実習(保育所)課題の明確化④フィードバック・⑤学びの共有(永井) 10. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価①自己評価(畠山) 11. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価②フィードバック(畠山) 12. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価③自己課題の明確化(畠山) 13. 保育実習(施設)課題の明確化④フィードバック・⑤学びの共有(畠山) <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 授業態度(40%)、提出物(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導 I (事前) | | |
| 担当者 | 永井 久美子、畠山 由佳子、川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かし、保育実習に向けての具体的な準備について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育実習を円滑に進めていくための知識、技能の習得及び実習の心構え、実習記録、実習課題について学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①保育実習の意義・目的を理解できるようになる。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができるようになる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようになる。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解できるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育実習に関わる準備(教材作り等)に取り組んでおいてください。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないでください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 専門職を目指す人は、いつも「プロ」になる意識を持ってこの授業に参加してください。授業の先には、子どもたちがいることを常に意識し、積極的に授業に臨むことを期待します。</p> | | | |

| | |
|---|---------------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導 I (事前) |
| 担当者 | 永井 久美子、畠山 由佳子、川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・実習生としての心構え(永井・川村) 2. 保育士という仕事(畠山・永井・川村) 3. 保育実習の意義・目的・概要(永井・川村) 4. 実習の内容と課題の明確化(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容 5. 実習の内容と課題の明確化(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・実習の課題 6. 実習に際しての留意事項(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権と最善の利益の考慮 ・プライバシーの保護と守秘義務 7. 児童養護施設の実習(事前指導)(畠山・永井・川村) 8. 保育内容の展開(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・一日の保育の流れ・保育の展開例 ・保育の内容構成 ・保育の内容と子どもの活動 9. 実習における計画と実践(永井・川村) 10. 実習における観察、記録及び評価(永井・川村) 11. 保育方法と形態の理解(永井・川村) 12. 施設実習の実際(畠山) 13. 施設実習の留意点(畠山) <ul style="list-style-type: none"> ・順序は変更する場合があります。 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(40%)、提出物(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 著者名: 久富陽子編著 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-199-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導Ⅱ | | |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かし、保育実習に向けての具体的な準備について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしていきます。</p> <p>[到達目標] ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できるようになる。 ②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できるようになる。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できるようになる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解できるようになる。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にするようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 保育実習に関わる準備(教材作り等)に取り組んでおいてください。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないでください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 専門職を目指す人は、いつも「プロ」になる意識を持ってこの授業に参加してください。授業の先には、子どもたちがいることを常に意識し、積極的に授業に臨んでください。</p> | | | |

| | |
|---|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導Ⅱ |
| 担当者 | 永井 久美子、川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(永井・川村) 2. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 3. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバック 4. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・自己課題の明確化 5. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・学びの共有 6. 保育実習における総合的な学び(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 ・子どもの保育と保護者支援 7. 保育の実践力の育成(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・子ども(利用者)の状況に応じた適切な関わり ・保育の知識・技術を活かした保育実践 8. 計画と観察、記録、自己評価(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・保育の全体的計画に基づく具体的な計画と実践 ・保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 9. 実習における計画と実践(永井・川村) 10. 実習における観察、記録及び評価(永井・川村) 11. 保育方法と形態の理解(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成 12. 保育方法と形態の実践(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育 13. 実習の心得確認、保育所保育の今日的課題の理解・留意点、保育士の専門性と職業倫理(永井・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・順序は変更する場合があります。 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法：授業態度(40%)、提出物(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 著者名：久富陽子編著 出版社：萌文書林 (978-4-89347-199-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導Ⅲ | | |
| 担当者 | 畠山 由佳子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 児童福祉現場においてソーシャルワーク経験のある教員が児童福祉施設について現場の事例を用いながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅰ(施設)で学んだことを応用できるような現場に通じる実践力を養うために、個別・グループでのワークを通じた密な指導を行います。</p> <p>[到達目標] 保育所以外の児童福祉施設への就職を希望する学生を対象とするために、即戦力となる現場での実践力と施設養護の最新の知識を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の実習先について事前に調べておき知識を付けておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 受講態度・授業参加度(30%)、提出課題(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物に評価とコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 受講生は施設保育士を目指し、保育実習Ⅲを履修する予定の人のみとなります。必ず事前に担当教員と面談をしたうえで履修して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|---------|
| 授業科目名 (副題) | 保育実習指導Ⅲ |
| 担当者 | 畠山 由佳子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲによる総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの最善の利益を考慮した養護の具体的理解 2) 子どもの養護と保護者支援 2. 施設現場での実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> 1) かかわりが難しい子どもへの適切なかかわり 2) 施設現場で起こる場面での適切なかかわり 3. 個別支援計画の立て方 4. 子どもの家庭への支援と対応 5. 多様な専門職との連携 6. 地域社会との連携 7. 利用者のニーズの把握① アセスメントの方法と理解 8. 利用者のニーズの理解② 支援計画立案と実施 9. 事例① 子どもとの基本的な関わり 10. 事例② 関わりの難しい子どもの事例 11. 事例③ 子どもの発達に合わせた関わり 12. 児童福祉施設への理解 13. 実習のねらいと実習計画立案 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 提出課題、出席、発表状況</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育者のキャリア形成論 | | |
| 担当者 | 永井 久美子、大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | キャリアサポートに関してのプロや現場での実践を行っている先輩がゲストスピーカーとして講義を担当します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>さまざまな就労モデルと働き方について保育の視点から概観し、ワーク・ライフ・バランスについてと職業人としての労務知識について学びます。また、社会人になるための就職試験に対する具体的な計画を立てます。内容に応じては、外部講師を招聘し、教職支援センター、キャリアサポートセンターとも連携した授業を実施します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①社会に参画するとはどういうことなのかを把握し、子どもや保護者、同僚とより良い人間関係を築いていかなければならない保育者としてのキャリアデザインを描くことができる。</p> <p>②コミュニケーション能力や豊かな表現力をもち合わせた保育者になるための基礎的知識・技術を修得することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>筆記試験(保育の専門)・一般常識・小論文といった保育者採用試験の対策として、適宜小テストを行うので、講義内容は復習をしておいてください。また、外部講師を招いて話を聞く授業では、その回のテーマについて調べ、質問事項を考えておいてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート及び課題(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題・レポートに対しては授業内で講評。コメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>保育の現場への就職を希望する人は必須となるのが学べる授業となります。保育の視点からよりよい社会人を目指すことの意義を自覚し、授業には課題意識をもって積極的に参加してください。</p> | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育者のキャリア形成論 |
| 担当者 | 永井 久美子、大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・保育者を目指すとは(永井・教職支援センター) 2. 社会が求める保育者像(永井) 3. 保育者としてのキャリア形成とは(永井) 4. 保育者を目指して①保育者の就業状況(大西・教職支援センター) 5. 保育者を目指して②保育者の資質(大西・教職支援センター) 6. 女性のための労務知識(外部講師・永井) 7. 保育者のための労務知識(外部講師・永井) 8. 最新の保育事情を知る①保育士(外部講師・永井) 9. 最新の保育事情を知る②幼稚園教諭(外部講師・大西) 10. 保育者を目指して③文章表現(大西・教職支援センター) 11. 保育者への道を聞く(大西・教職支援センター) 12. 保育の視点から考えるよりよい社会人としてのコミュニケーション・保育の視点から考えるよりよい社会人としての自己表現力(大西) 13. 保育者としてのワーク・ライフ・バランス・保育者としてのキャリアデザインを描く(永井) <p>外部講師等の都合で予定が変わることがあります。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:レポート及び課題(70%)、授業態度(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 各担当者が適宜プリント等を配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)] ジョブガイドブック(神戸女子短期大学)を配布。</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 保育者論 | | |
| 担当者 | 川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での実務経験を活かして、保育者として必要な知識等の指導を行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育者の役割と倫理、制度的な位置付けについて学びます。また、社会から求められている保育ニーズを知り、保育者としての資質や専門性、連携・協働することの重要性について理解し、保育者として望ましいキャリア形成とはどのようなものかについて学修します。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育者の役割と倫理について理解することができる。 ②保育者の制度的な位置付けを理解することができる。 ③保育者の専門性について考察し、理解することができる。 ④保育者の連携・協働について理解することができる。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> | | | |

| | |
|--|-------|
| 授業科目名 (副題) | 保育者論 |
| 担当者 | 川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理 2. 保育者の制度的位置付け 3. 現在の保育にまつわる問題 4. 保育者の役割を考える 5. 専門家として子どもとかわる 6. 保育者の専門性 7. 保育のプロセスと質の向上 8. 保育者の連携・協働 9. 保護者や家庭、地域との連携 10. 職員間の連携 11. 保育者のライフデザインを考える 12. より良い保育者像を目指して 13. 保育者のキャリア形成における課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート及び課題、小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者論ー子どものかたわらにー』 著者名: 小川圭子(編) 出版社: みらい (978-4-86015-412-7)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『保育所保育指針』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81422-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81424-6)</p> | |

| | | | |
|---|------------------------------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容総論 | | |
| 担当者 | 川村 高弘 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での実務経験を活かして、保育内容の総合的な指導を行います。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育内容の理解を深め、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連について学び、保育内容の理解を深めていきます。子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげながら学修していきます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①保育所保育指針や幼稚園教育要領等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。 ③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができる。 ④保育の多様な展開について具体的に理解することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(20%)、小テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には実際に保育に取り組もうとする気持ちで積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容総論 |
| 担当者 | 川村 高弘 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本及び保育内容の理解 2. 保育の全体構造と保育内容 3. 保育内容の歴史的変遷とその社会的背景 4. 子どもの発達や特性と保育内容 5. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 6. 個と集団の発達と保育内容 7. 保育における観察と記録 8. 養護と教育が一体的に展開する保育 9. 環境を通して行う保育 10. 生活や遊びによる総合的な保育 11. 生活や発達の連続性に考慮した保育 12. 家庭・地域・小学校との連携をふまえた保育 13. 保育内容における課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート及び課題、小テスト</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: レポート及び課題</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論』 著者名: 開仁志(編) 出版社: 保育出版社 (978-4-905493-19-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『保育所保育指針』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81423-9)</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81422-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81424-6)</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法B | | |
| 担当者 | 大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、5領域の中でも「人間関係」「環境」に焦点をあてて、子どもの豊かな生活や遊びに繋がる教材研究・開発に取り組み、幼児理解を深めるとともに保育実践力が身に付いていくように指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 手作りの教材作成に取り組む中で、領域「人間関係」「環境」に焦点をあて、学生自身が対話や協力することについて体験を通して学びます。また、情報機器や教材を活用し、子どもの豊かな生活に繋がる遊びや環境の構成等について、指導案作成や実践を通してより深く理解していきます。</p> <p>[到達目標] 保育の立案から実践に至る演習過程を通して、保育の構成と方法、必要な技能を修得することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ボランティア活動など可能な限り、乳幼児とかかわる体験を積み重ねる努力をしてください。社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について、興味をもちよく観察して保育の眼を養ってください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 実技作品(50%)、レポート(30%)、課題に取り組む態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 相手の話をよく聞き、自分の考えを述べてください。グループ活動での積極的参加が大切です。乳幼児と触れ合う機会をつくり、子ども理解に努めたり、日常触れる身近な環境に注意を払い保育に生かせるものを見つけたりして学修に役立ててください。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法B |
| 担当者 | 大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.「手作り教材」の意義と歴史 2.教材研究 ① 発達や年齢、季節、行事等子どもの興味、関心や生活に沿ったもの 3.教材研究 ② イメージする力を育成できるもの 4.教材作成の実践 ① 手袋シアターの題材選定 5.教材作成の実践 ② 手袋シアター作りと指導案作成 6.教材作成の実践 ③ 手袋シアター作りと発達に即した情報機器を活用した演じ方の工夫 7.手袋シアターの発表と相互評価 ① 模擬保育の実施(情報機器の活用を含む) 8.手袋シアターの発表と相互評価 ② 模擬保育の振り返りを基に評価・考察 9.グループ活動の実践 ① 協同的な遊びの工夫(情報機器の活用を含む) 10.グループ活動の実践 ② 身近な素材を用いた教材の作成(情報機器の活用を含む) 11.グループ活動の実践 ③ 役割を演じることができる遊び(情報機器の活用を含む) 12.グループ活動の実践 ④ 発表と記録、記録をもとに評価・考察 13.領域「人間関係」「環境」の現代社会における課題・まとめ <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 作品、作品制作への取組、レポートで評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 作品を活用しての模擬保育、また、グループ活動での取組等授業態度で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> | |

| | | | |
|--|-----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法C | | |
| 担当者 | 矢野 真理 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について理解を深める。豊かな感性を養い自己表現を楽しむための基本的姿勢を身に付けるとともに、子どもの豊かな身体表現を引き出し育むための動機づけ、援助・指導について教材や情報機器を活用し学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①自分自身が、生活の中で感じたことや考えたことを身体の動きで表現できるようになる。 ②音楽、遊具、用具などを使った身体表現やリズム遊びなどの経験もとり入れ指導ができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>季節や身の回りの事象の変化を敏感に捉え、感じたこと気づいたことを積極的に言葉や身体で表現し、共感し合う体験を心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>発表(40%)、レポート(20%)、課題へ取り組む姿勢・授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、添削して後日返却します。発表は終了後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>この授業では「自らが自己表現を楽しめる」ことが重要となります。発表などの場面では、はずかしがらずに意欲をもって取り組んでください。 実技の授業では、スポーツウエアとスポーツシューズを着用してください。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法C |
| 担当者 | 矢野 真理 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」のねらいと内容 2. 身体表現の概要(1) 表現の意味・身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について 3. 身体表現の概要(2) 発育・発達と身体表現について(教材や情報機器の活用) 4. 身体表現のための動きの実践(1) ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションを深める身体表現 5. 身体表現のための動きの実践(2) 乗り物や動物など身の回りにあるものを模倣する身体表現 6. 身体表現のための動きの実践(3) 音楽やリズムを使った身体表現 7. 身体表現のための動きの実践(4) 絵本を活用し、イメージや感じたことを身体で表現 8. 身体表現のための動きの実践(5) 自然や生活のなかにある音、形、色などを表現する 9. 創作と身体表現(1) グループワークでの創作活動 題材の選択と役割分担(情報機器の活用を含む) 10. 創作と身体表現(2) グループワークでの創作活動 振付 構成 11. 創作と身体表現(3) グループワークでの創作活動 全体の流れの確認 12. 創作と身体表現(4) 発表と評価 13. 子どもの身体表現を引き出し育むための保育者の役割 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 発表</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 原本』 著者名: 内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社: 株式会社チャイルド本社 (978-4- 8054-0258-0)</p> | |

| | | | |
|---|-----------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法C | | |
| 担当者 | 矢野 真理 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について理解を深める。豊かな感性を養い自己表現を楽しむための基本的姿勢を身に付けるとともに、子どもの豊かな身体表現を引き出し育むための動機づけ、援助・指導について教材や情報機器を活用し学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①自分自身が、生活の中で感じたことや考えたことを身体の動きで表現できるようになる。 ②音楽、遊具、用具などを使った身体表現やリズム遊びなどの経験もとり入れ指導ができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 季節や身の回りの事象の変化を敏感に捉え、感じたこと気づいたことを積極的に言葉や身体で表現し、共感し合う体験を心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 発表(40%)、レポート(20%)、課題へ取り組む姿勢・授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、添削して後日返却します。発表は終了後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] この授業では「自らが自己表現を楽しめる」ことが重要となります。発表などの場面では、はずかしがらずに意欲をもって取り組んでください。 実技の授業では、スポーツウエアとスポーツシューズを着用して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|-----------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法C |
| 担当者 | 矢野 真理 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」のねらいと内容 2. 身体表現の概要(1) 表現の意味・身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について 3. 身体表現の概要(2) 発育・発達と身体表現について(教材や情報機器の活用) 4. 身体表現のための動きの実践(1) ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションを深める身体表現 5. 身体表現のための動きの実践(2) 乗り物や動物など身の回りにあるものを模倣する身体表現 6. 身体表現のための動きの実践(3) 音楽やリズムを使った身体表現 7. 身体表現のための動きの実践(4) 絵本を活用し、イメージや感じたことを身体で表現 8. 身体表現のための動きの実践(5) 自然や生活のなかにある音、形、色などを表現する 9. 創作と身体表現(1) グループワークでの創作活動 題材の選択と役割分担(情報機器の活用を含む) 10. 創作と身体表現(2) グループワークでの創作活動 振付 構成 11. 創作と身体表現(3) グループワークでの創作活動 全体の流れの確認 12. 創作と身体表現(4) 発表と評価 13. 子どもの身体表現を引き出し育むための保育者の役割 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 発表</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 原本』 著者名: 内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社: 株式会社チャイルド本社 (978-4- 8054-0258-0)</p> | |

| | | | |
|---|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(環境) | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、環境における現代的な課題や望ましい環境について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>本授業では「幼児と環境」で得た知識や感性を土台として、幼児の発達や学びの過程を理解し具体的な指導場面を想定した保育を構成し実践する力を身に付けていきます。領域「環境」のねらい及び内容を理解した上で、事例や実際の活動を通して、保育構成と実践に関する基礎・基本、評価の在り方、小学校との接続を視野に入れた保育内容の構成について学びます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①領域「環境」のねらいや内容を理解することができる。 ②幼児の発達や学びの過程を理解し、保育を構成し実践していく力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前にテキストの指定箇所を読んで受講してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、講評を加えて返却します。 テストを回収後に、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他]</p> <p>積極的な態度で授業に臨んでください。</p> | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(環境) |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基本と領域「環境」(幼小の接続を含む) 2. 領域「環境」のねらいと内容、資質・能力について 3. 自然事象と領域「環境」 4. 社会生活と領域「環境」 5. 文化や伝統と領域「環境」 6. 数量や図形と領域「環境」 7. 生活力と領域「環境」 8. 遊びと領域「環境」 9. 保育の実際①計画立案(「情報機器の活用」を含む) 10. 保育の実際②模擬保育(「情報機器の活用」を含む) 11. 保育の実際③振り返り(「情報機器の活用」を含む) 12. 保育の実際④ドキュメンテーションの作成(「情報機器の活用」を含む) 13. 授業全体の振り返りと環境に関わる現代的課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】 幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 提出課題 授業態度</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『子どもの姿から始める 領域・環境』 著者名: 秋田喜代美 出版社: 未来 (978-4-86015-515-5C3337)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81477-5 C3037)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(健康) | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験がある者が、その経験を生かして、子どもの発達を踏まえた活動や、リスクマネジメントなどの現代的課題について指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領および保育所保育指針等における、心身の健康に関する領域「健康」に示された観点から、乳幼児期の健康教育の基本的な理論を深めます。また自発的な活動としての遊びを自ら楽しみ保育実践に生かす活動を取り入れます。</p> <p>[到達目標] 乳幼児期における子どもの心身の健康に関わる領域や知識について学ぶとともに、具体的な楽しい遊びを探求し、模擬保育を通して保育者としての実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前にテキストの指定箇所を読んでおいてください。授業後は、ノートをまとめて振り返りをおいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は、後日返却し講評します。 小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] ・ 日頃から、子どもの生活する姿に関心を持ち、その活動を観察研究する心構えを備えるようにしてください。 ・ 積極的な態度で授業に臨み、自他の健康・安全に心がけてください。</p> | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(健康) |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.領域「健康」のねらいと内容 2.子どもの発達と領域「健康」 3.健康をとらえる視点(1)生活リズム 4.健康をとらえる視点(2)幼児理解 5.健康をとらえる視点(3)生活習慣 6.健康をとらえる視点(4)危機管理 7.発達に応じた運動遊び(情報機器・教材の活用を含む) 8.用具を用いた運動遊び(情報機器・教材の活用を含む) 9.食育とアレルギー 10.安全指導 11.保育活動の実践 (1)模擬保育準備・指導案作成 12.保育活動の実践 (2)模擬保育の実践と記録 13.«健康な心と体»における現代的課題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト 提出課題</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:授業態度 提出課題</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>新しい保育講座7『保育内容 健康』 著者名:河邊貴子/・鈴木康弘・渡邊英則 編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-08533-0)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81477-5 C3037)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(言葉) | | |
| 担当者 | 桐原 美恵子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場での経験を活かして、幼児の具体的な姿や実践事例を取り入れながら指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 言葉の発達の道筋を理解し、乳幼児期の環境や保育者のかかわり、援助について事例を通して学びます。また、情報機器や教材を活用し、自分自身の言葉の振り返りや実践を通して言葉に対する感覚を磨いていきます。</p> <p>[到達目標] 子どもが言葉を獲得する過程や、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解するとともに、言葉による自己表現を豊かにしていくための保育者の役割を理解し、実践力を付けていくことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の領域「言葉」についての内容を読み、発達の理解に努めてください。 ・多くの絵本等に親しみ、自らの言葉を豊かにしていく努力してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト(50%)、作品(20%)、模擬保育(20%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートや提出した作品は後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 保育者は、乳幼児にとって大きな影響を与える重要な環境となります。そのことを自覚して自身の「ことば」を見つめながら授業に積極的に参加して下さい。</p> | | | |

| | |
|--|--------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(言葉) |
| 担当者 | 桐原 美恵子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、人間と言葉について 2.幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらいと内容 3.子どもの言葉の発達① ・言葉の芽生えと様々な表現 4.子どもの言葉の発達② ・言葉の発達をとらえる視点 5.子どもの言葉の発達③ ・言葉が育つ子どもの環境 6.子どもの言葉の発達④ ・話し言葉と環境 ・読み・書き言葉と環境 7.集団生活の中での言葉の育ち ・情報機器による言葉の響き、リズムと言葉の感覚 ・言葉が気になる子ども 8.保育者の指導・支援① ・模擬保育:保育指導案の作成、言葉遊びの実践 9.保育者の指導・支援② ・模擬保育:手作り教材の活用 10.保育者の指導・支援③ ・発達に応じた様々な情報機器の活用と実践 11.子どもと絵本(学外特別講師) 12.保育者の言葉、絵本の読み聞かせの実践 13.現代社会と言葉をめぐる問題 ・メディアとことば(情報機器によるバーチャルな仮想の世界と子どもの生活) ・子どもの言葉の発達についての理解度確認テスト・解説 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:模擬保育、作品</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』 著者名:駒井美智子編 出版社:株式会社みらい (978-4-86015-422-6)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省編 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名:内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|--|---|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(人間関係) | | |
| 担当者 | 大西 眞弓 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、乳幼児が身近な環境を通して、人との関わりを広げていく過程を具体的な乳幼児の姿から学び、領域「人間関係」のねらい及び内容の理解が深まるよう指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 領域「人間関係」のねらい及び内容の理解を深め、乳幼児期における人とかかわりの重要性を学びます。また講義と併せて情報機器や教材を活用し、自立心や信頼感などを育む保育を探究し、実践に生かす活動を取り入れます。</p> <p>[到達目標] 乳幼児が人とかかわる力を身に付けていく過程や、発達の道筋をとらえるなど「人とかかわる力の基礎」を理解し、保育者の資質を養うことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業の指定範囲について、事前にテキストをよく読むようにしてください。また、ボランティア活動など可能な限り、乳幼児とかかわる体験を積み重ねる努力をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業態度(20%)、レポート(40%)、小テスト(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。 理解度確認テスト実施の際は、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 相手の話をよく聞き、自分の考えを述べてください。 乳幼児と触れ合う機会を積極的につくり、幼児理解に努め、学修に役立ててください。</p> | | | |

| | |
|---|----------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(人間関係) |
| 担当者 | 大西 眞弓 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と人とのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」の原点としての人間関係 2. 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における保育の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い 3. 幼稚園教育の基本と人間関係 4. 人とのかかわりと遊び(情報機器や教材の活用を含む) 5. 遊びの中で育つ人とのかかわり(情報機器や教材の活用を含む) 6. 幼稚園児と交流(参加保育) 7. 参加保育の振り返り 8. 人とのかかわりを育てる保育の実践① ・人とのかかわりが育つプロセス 9. 人とのかかわりを育てる保育の実践② ・保護者との対応 10. 人とのかかわりを育てる保育の実践③ ・グループ活動の実践 11. 人とのかかわりを育てる保育の実践④ ・模擬保育と討議 12. 人とのかかわりを育てる保育者の役割 ・人とのかかわりが難しい子どもへの支援 13. 領域「人間関係」をめぐる諸問題 幼児期の人とのかかわりのまとめと復習 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業への取組、小テストで評価します。</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法: 授業への取組、レポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『最新保育講座8保育内容「人間関係」』 著者名: 森上史朗・小林紀子・渡辺英則編 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05498-5)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名: 厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 著者名: 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|---------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(表現Ⅰ) | | |
| 担当者 | 小松原 祥子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | × | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼児の音楽的発達と幼稚園教育要領の理解をした上で、歌・器楽・リトミック・簡易伴奏法による支援方法、オルフの音楽教育・幼保小接続・創造的音楽学習・ICTの活用法について実践によって学び、音楽遊びの指導計画の作成と模擬保育を行う。</p> <p>[到達目標] ①幼児の音楽的発達と音楽遊びの支援の在り方を理解できるようになる、 ②リトミック等創造的表現や簡易伴奏によって、音楽遊びや歌唱支援のための実践力を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 発表の準備・練習を十分に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 授業内試験(30%)、授業への取り組みや授業内での発表(40%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業の中で講評・解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 初回授業から教科書を持参して下さい。発表に向けて十分な準備練習をするようにして下さい。</p> | | | |

| | |
|---|---------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(表現Ⅰ) |
| 担当者 | 小松原 祥子 |
| <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション 乳幼児の音楽的発達と生活と遊び 第2回:幼稚園教育要領におけるねらいと指導の留意点 第3回:わらべうた、唱歌、童謡と支援の在り方 第4回:乳幼児と楽器(主に簡易打楽器を使った表現)オルフの音楽教育 第5回:幼児教育と小学校教育とのつながり 創造的音楽学習 ICTの活用 第6回:試験と中間まとめ リトミックによる音楽教育①即時反応・基礎リズム 第7回:リトミックによる音楽教育②音の高低・強弱・遅速 第8回:リトミックによる音楽教育③リズムパターン・フレーズ・ソルフェージュ 第9回:歌唱支援の方法 3コードによる伴奏法① ハ長調・ヘ長調 第10回:歌唱支援の方法 3コードによる伴奏法② ト長調他 第11回:音楽遊びの指導計画と評価 第12回:音楽遊びの模擬保育発表と振り返り(低年齢児) 第13回:音楽遊びの模擬保育発表と振り返り(年長児)</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:授業内試験(30%)、授業への取り組みや授業内での発表(40%)、提出物(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』 著者名:今泉明美・有村さやか(編) 出版社:萌文書林 (978-4-89347-246-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81447-5) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81424-6) 『表現のためのピアノ曲集』 著者名:小阪恵一著 出版社:全音楽譜出版社 (4-11-170-383-6 C3073)</p> | |

| | | | |
|--|-----------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(表現Ⅱ) | | |
| 担当者 | 辻田 美和 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 造形表現作品制作に取り組みます | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 領域「表現」のねらい、内容について理解を深め、子どもの発達や学びの過程を理解します。さまざまな教材や、多様な表現方法に触れる実践を通して、幼児の造形表現活動の援助に必要な基礎的知識と技能を身につけ、保育指導案の作成と模擬授業に取り組みます。グループでの対話や、描くこと、作ること、見ること(鑑賞すること)などを通して、造形表現の楽しさを味わい、保育構想の向上に取り組みます。</p> <p>[到達目標] ①領域「表現」の表現のねらい及び内容について理解できる。 ②子どもの発達と造形表現活動の特性について理解できる。 ③教材や情報機器の活用方法を理解し、多様な表現方法に触れ、幼児の表現活動に必要な基礎知識と技能を身に付けることができる。 ④指導案の構成を理解し、指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、表現活動を構想することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内容を振り返り復習し、理解を深め、ワークシートへの活動の記録と授業ファイルの整理に取り組んでください。授業内容の中で興味を持った点を自主的に深めてください。授業内に作品が仕上がらなかった場合は次の回までに完成させておいてください。 各回の講義についての予習・復習に取り組んでください(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[成績評価方法] 保育指導案の作成と模擬保育への取り組み(20%)、作品制作活動と作品(30%)、ワークシートと授業ファイル(40%)の提出物、受講態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] テーマごとのワークシート記述内容を振り返り、制作作品とともに返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 自分の考えを表現する機会として、グループでの意見交換や共有などの活動に取り組みますので、作品制作とともに積極的な参加を歓迎します。基本的な画材の理解を深めるために、作品制作に必要な図画鉛筆と水性絵具セットは各自で準備してください。詳しくは授業にて説明します。</p> | | | |

| | |
|--|---------------|
| 授業科目名 (副題) | 保育内容の指導法(表現Ⅱ) |
| 担当者 | 辻田 美和 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、表現とは何か 2.幼稚園教育要領における領域「表現」の理解 3.子どもの発達と表現の理解①発達と描画 4.子どもの発達と表現の理解②錯画期～図式期の表現 5.教材の理解と安全指導 6.表現の実践1研究(描く)、情報機器を用いた作品の記録 7.表現の実践1実践(描く)、情報機器を用いた作品の記録 8.表現の実践2研究・実践(作る)、情報機器を用いた作品の記録 9.表現の実践3研究(感じる)、情報機器を用いた作品の記録 10.表現の実践3実践(イメージする)、情報機器を用いた作品の記録 11.表現活動の組み立て方と評価の理解 12.指導案の構成の理解と作成、模擬保育の準備 13.模擬保育の実践と相互評価 振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 保育指導案の作成と模擬保育への取り組み、ワークシートと授業ファイルの内容、作品制作活動と作品で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』 著者名: 樋口一成 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-331-0)</p> <p>『幼稚園教育要領(平成29年3月告示)』 著者名: 文部科学省</p> <p>『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(平成29年3月告示)』 著者名: 内閣府/文部科学省/厚生労働省</p> <p>『保育所保育指針(平成29年度3月告示)』 著者名: 厚生労働省</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『美術資料』 著者名: 京都市立芸術大学美術教育研究会 出版社: 秀学社</p> <p>『幼児の造形ニューヒット教材集1 絵画・造形あそび編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031712-7)</p> <p>『幼児の造形ニューヒット教材集2 手づくりおもちゃ・立体造形編』 著者名: 東山明 監修 出版社: 明治図書 (978-4-18-031816-2)</p> | |

| | | | |
|--|--------|-------------|--|
| 授業科目名 (副題) | 保育の心理学 | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の発達を中心に発達理論等の心理学的知識を学びます。それを踏まえて、保育実践につながる援助の基本を学修します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解できる。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。 ③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解することができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 小テスト(40%)、ワーク(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 学期に複数回の小テストを実施し、その直後に解答を示して解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 小さい子どもの心の育ちに関心を持ち、意欲的に授業に臨むことを期待します。テキストを2冊購入して下さい。</p> | | | |

| | |
|---|--------|
| 授業科目名 (副題) | 保育の心理学 |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション/発達をとらえる視点 2. 子どもの発達を理解することの意義 3. 子どもの発達と環境 4. 子どもの発達過程と子ども観・保育観 5. 社会情緒的発達 6. 身体的機能と運動機能の発達 7. 認知・言語の発達 8. 子どもの学びと保育 9. 乳幼児期の学びに関わる理論および学びの過程と特性 10. 乳幼児期の学びを支える保育 11. 保育における養護と教育の一体性 12. 子どもの障がいへの理解 13. 学びの確認・現代社会における心の育ちへの諸問題 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、ワーク(60%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て いのちのリレーの心理学』 著者名:菅野幸恵・塚田みちる・岡本依子 出版社:新曜社 (978-4-7885-1215-3)</p> <p>『エピソードで学ぶ保育のための心理学-子ども理解のまなざし』 著者名:塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵・ 出版社:新曜社 (978-4-7885-1656-4)</p> <p>『じぶんでつくる6さいまでのアルバム』 著者名:やまわきゆりこ 出版社:福音館書店 (4-8340-1722-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『よくわかる発達心理学』 著者名:無藤 隆(編) 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-03928-9)</p> | |

| | | | |
|---|--|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 幼児と環境 | | |
| 担当者 | 山内 有香子 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | ○ | | |
| 実務経験内容 | 学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、幼児と環境との関わりについて指導します。 | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 本授業は、領域「環境」の指導の基盤となるものです。まず、幼児を取り巻く環境の諸側面から現代的課題を明らかにし、乳幼児からの発達と環境との相互関係の中で保育において育てる資質・能力を理解していきます。次に、具体的な関わりとして自然・社会・数量や図形・文字や標識についての内容を扱います。体験活動として学内外のフィールドワークを実施し、活動の中で複数の内容を一体的に学び、さらに、小学校との接続を視野に入れた環境の構成についての理解もできるようにしていきます。</p> <p>[到達目標] ①子どもを取り巻く環境や、子どもの発達と環境との関わりを理解することができる。 ②領域「環境」の指導に必要な感性を養い、実践力の基礎となる知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] 提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物は、後日返却し講評します。 小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 日常的に、社会事象、自然事象、人のかかわりの様子について興味を持ちよく観察して、保育の眼を養う努力をしてください。</p> | | | |

| | |
|--|--------|
| 授業科目名 (副題) | 幼児と環境 |
| 担当者 | 山内 有香子 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.幼児を取り巻く環境の諸側面 3.現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題 4.乳幼児期の発達と環境 5.環境と幼児理解①自然環境 6.環境と幼児理解②栽培・飼育 7.環境と幼児理解③数量・図形 8.環境と幼児理解④標識・文字 9.環境と幼児理解⑤情報・施設 10.環境と幼児理解⑥文化・伝統 11.フィールドワーク①学内・学外の環境 12.フィールドワーク②発表と評価 13.幼小の連続性と授業全体の振り返り <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【1-1】幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:小テスト 提出課題</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『子どもの姿からはじめる 領域・環境』 著者名:秋田喜代美 出版社:みらい (978-4-86015-515-5C3337)</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名:文部科学省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81477-5 C3037)</p> <p>『保育所保育指針解説』 著者名:厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81448-2)</p> <p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 著者名:内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:フレーベル館 (978-4-577-81449-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p> | |

| | | | |
|---|------------|-------------|---|
| 授業科目名 (副題) | 幼児理解の理論・方法 | | |
| 担当者 | 松岡 恵 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験内容 | | | |
| [アクティブラーニング授業] | | | |
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | | |
| [ICTの活用] | | | |
| manaba | ○ | Moodle | |
| その他 | | | |
| <p>[授業全体の内容の概要] 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。本授業では、①幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する、②幼児理解の方法を具体的に理解するという2点について取り上げます。</p> <p>[到達目標] 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[成績評価方法] レポート(30%)、提出物(50%)、発表(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] グループごとに学習成果の振り返りを実施します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[受講生への要望、その他] 幼児理解は保育の基盤となるものです。多様な視点から、また共感的に理解できるように学んでいってください。</p> | | | |

| | |
|--|------------|
| 授業科目名 (副題) | 幼児理解の理論・方法 |
| 担当者 | 松岡 恵 |
| <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.その人らしさを知る(生い立ちを背景に) 3.遊びを通しての学び(物語の世界を楽しむ) 4.子どもたちの行動を観察する(観察の基本的態度) 5.観察と記録の方法(保育記録の書き方) 6.幼稚園観察の事前指導(ショートプログラムのグループワークを含む) 7.幼稚園の観察実習(年齢ごとの違いを観察する) 8.観察に基づくグループディスカッション(いざこざの対応に注目して) 9.個と集団の関係を捉えることの難しさ 10.子ども・家庭支援及び家庭連携①(子ども・家庭支援の必要性) 11.子ども・家庭支援および家庭連携②(保護者との関わりの基本と地域の子育て支援) 12.保育実践における子ども理解の総括(物理的環境の観点から) 13.保育実践における子ども理解の総括(人的環境の観点から) <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【2-1】幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 成績評価方法:レポート(30%)、提出物(50%)、発表(20%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『エピソードで学ぶ保育のための心理学-子ども理解のまなざし』 著者名:塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵 出版社:新曜社 (978-4-7885-1656-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府/文部科学省/厚生労働省)』 著者名:内閣府/文部科学省/厚生労働省 出版社:該当HP参照</p> | |